

## はじめに

近年、青少年を取り巻く環境は、少子化や核家族化の進行、地域力の低下などに加え、スマートフォンやSNSなどといった情報化社会の進展などにより多様化・複雑化しており、青少年の意識や行動に多大な影響を及ぼしています。

このような中、青少年期に、自然の偉大さや命の大切さ、他者との協働の重要性などを実感するための様々な「体験活動」がますます重要になっていくものと考えます。

このため、県教育委員会では、次年度以降のあおもりの未来をつくる人財の育成に関する生涯学習関連施策の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的として、児童生徒及び保護者を対象とした「青少年の体験活動に関する県民の実態調査」を実施しました。調査では、自然体験、手伝い、生活習慣など様々な体験活動の経験の有無のほか、自分自身に関する意識、携帯電話やスマートフォン、読書、塾や習い事に関する実態など、青少年の「今」をめぐる多岐にわたる設問項目としています。また、調査結果については、同様の全国調査との比較を行い、本県の青少年の実態や意識の特徴をまとめています。

本報告書が、未来の青森県づくりの基盤となる人財の育成を目指す生涯学習・社会教育に係る各種の施策や事業構築の参考となれば幸いです。

最後に、アンケートへの御回答をいただいた県民の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成31年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 渡部 靖之

## 目 次

第 1 章	調査の概要-----	1
1	調査の名称	
2	調査の趣旨	
3	調査対象	
4	調査方法	
5	回収結果	
6	研究顧問	
第 2 章	調査の結果-----	2
I	児童生徒対象調査	2
1	回答者の属性	2
2	体験活動について	3
3	手伝いについて	8
4	生活習慣について	11
5	自分自身のことについて	17
6	体験活動（学校の授業や行事以外）について	22
7	得意教科について	26
8	普段の生活について	27
9	家族構成について	30
10	自分専用に所有しているものについて	31
11	携帯電話やスマートフォンについて	32
12	青少年団体・部活動の所属状況について	33
13	塾や習い事について	34
14	アルバイト・卒業後の進路状況について	35
II	保護者対象調査	36
1	子ども、回答者の属性	36
2	子どもの体験活動について	37
3	子どもの体験活動に対する保護者の意識について	39
4	子どもの基本的な生活習慣について	43
5	子どもの人数、起床・就寝時間について	46
6	子どもが自分専用に所有しているもの	47
7	子どもの青少年団体の所属について	48
8	子どもの塾や習い事について	49
9	保護者の幼少期の体験活動状況について	50
10	保護者の地域との関わりについて	52
11	子どもの学校外の教育、世帯収入について	53

第3章	全国調査との比較-----	54
1	青少年の体験活動等に関する実態調査について	54
2	青少年の体験活動	55
3	青少年の意識	62
4	青少年の携帯電話・スマートフォンの所有や使用	68
5	世帯収入や子ども（小学生）の教育費（学校以外）	73
第4章	クロス集計について-----	75
1	自己肯定感	75
2	体験活動と道徳観・正義感の関係	79
3	世帯収入と子どもの教育費（学校以外）との関係	81
4	世帯収入や子どもの教育費（学校以外）と子どもへのしつけの関係	82
第5章	考察-----	84
I	あおもりの未来をつくる「人財」育成のために	84
II	子どもの自然体験参加や親のしつけを促す要因～保護者調査の結果から～	91

## 第1章 調査の概要

### 1 調査の名称

青少年の体験活動に関する県民の実態調査

### 2 調査の趣旨

本調査では、次年度以降のあおもりの未来をつくる人財の育成に関する生涯学習関連施策の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

### 3 調査対象

母集団 県内在住の小学校4年生、中学校2年生、全日制高等学校2年生

小学校2・4・6年生の保護者

標本数 児童生徒 3,035人、保護者 3,047人 計 6,082人

### 4 調査方法

上記母集団から、無作為に学級を抽出した上で調査票を学校へ送付し、直接記入した調査票を同封の返信用封筒に入れ、無記名で回収した。調査票の印刷・回収、調査結果の集計業務は、業者委託により実施した。

- ・調査業務委託先 株式会社サンブラッソ・エイティープイ
- ・調査票の発送 平成31年1月9日
- ・回答期限 平成31年1月22日

※調査票については、下記からダウンロードすることができます。

[http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/aomorimanabi-e\\_shogai.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/aomorimanabi-e_shogai.html)

### 5 回収結果

有効回答数(率) 5,673人 (93.28%)

調査不能数(率) 409人 (6.72%)

### 6 研究顧問

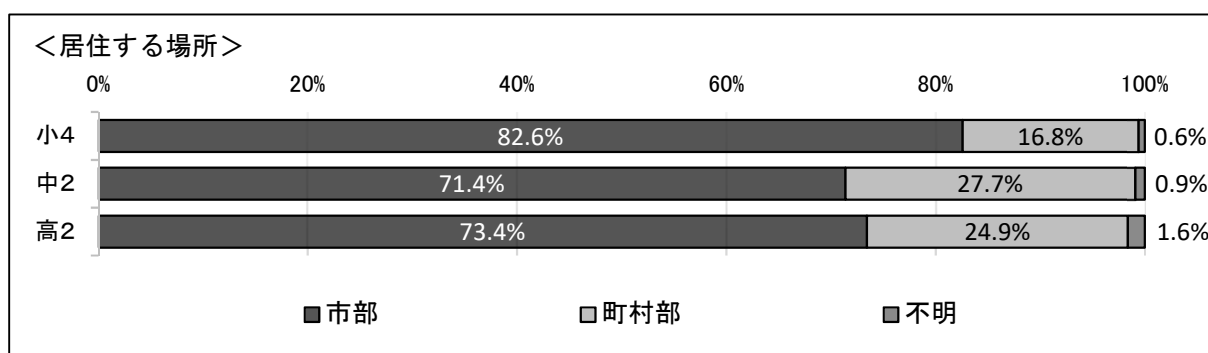
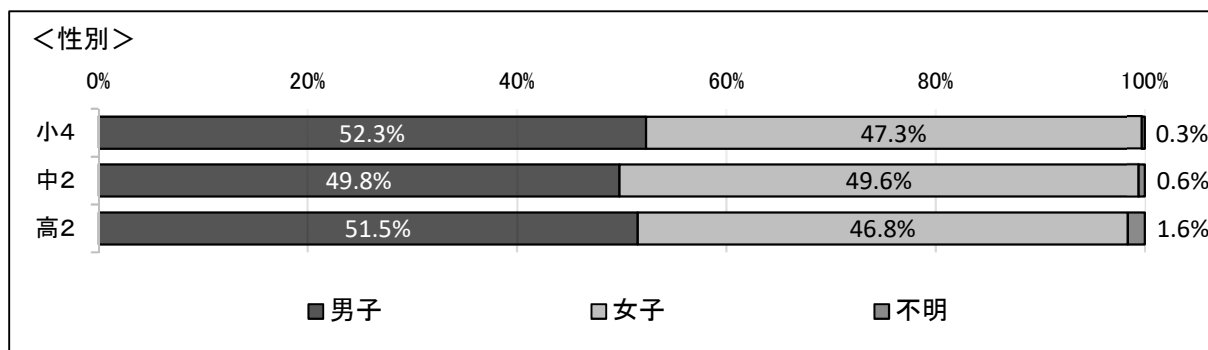
- ・宮崎 秀一 氏 (弘前大学教育学部 教授)
- ・柏谷 至 氏 (青森大学社会学部社会学科 教授)

<留意事項>本調査報告書では、比率を百分率(%)で表し、小数点第2位で四捨五入した値で表示している。単数回答項目及び複数回答項目については、回答者数を分母として百分率を算出しているため、合計が100%にならない場合がある。図表及び文章中において、選択肢の表記は複雑な表現を避ける目的で一部省略している。

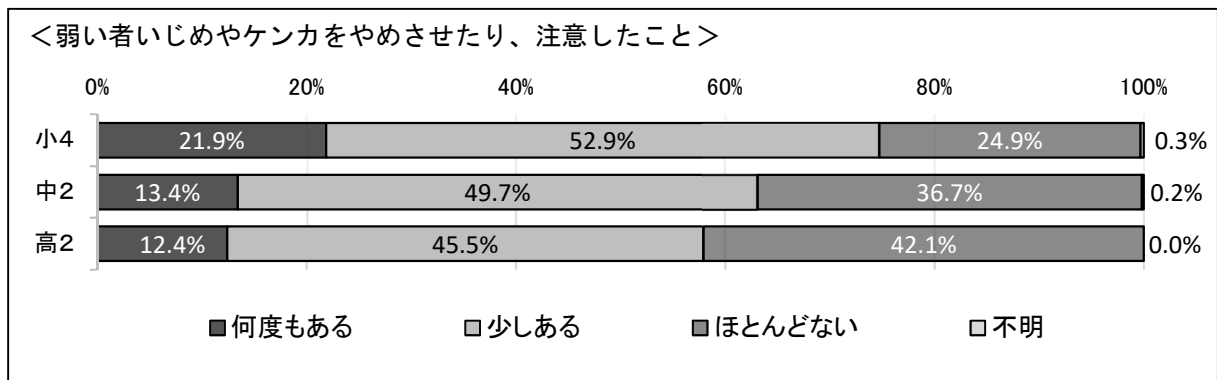
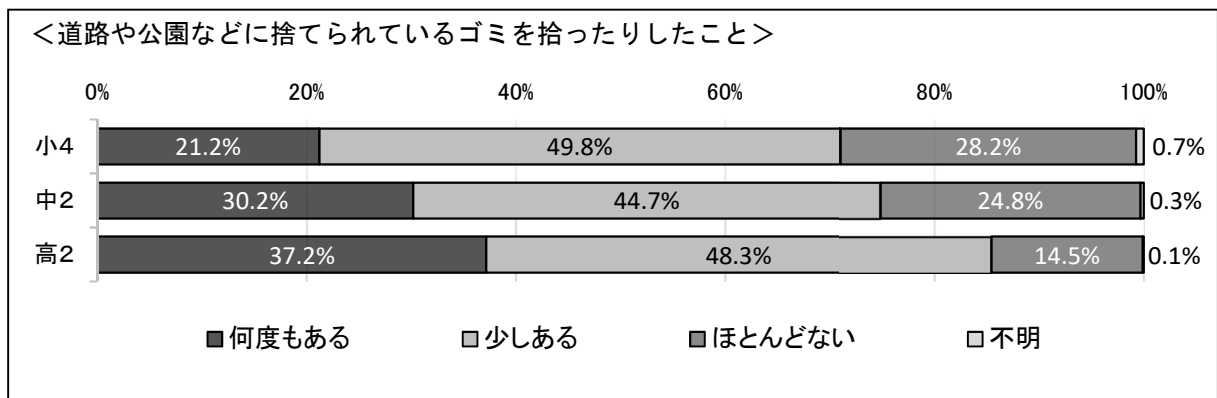
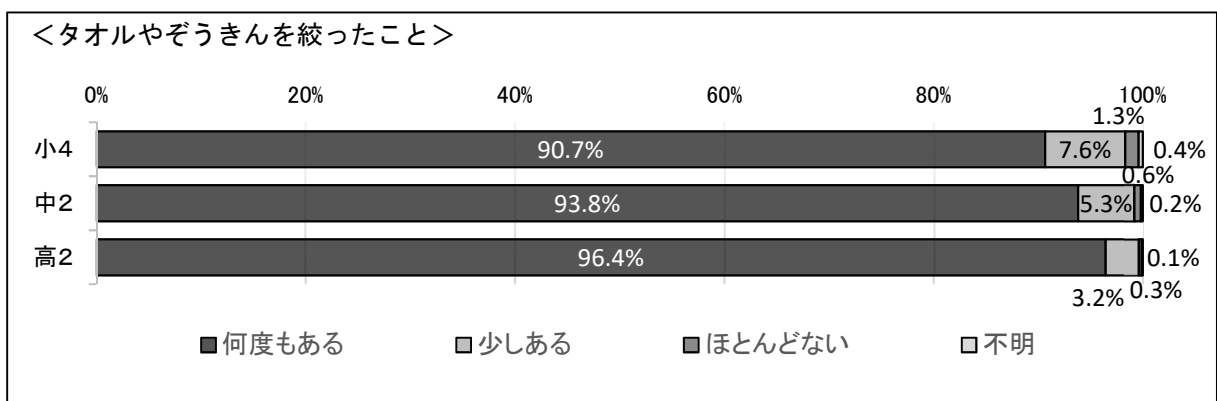
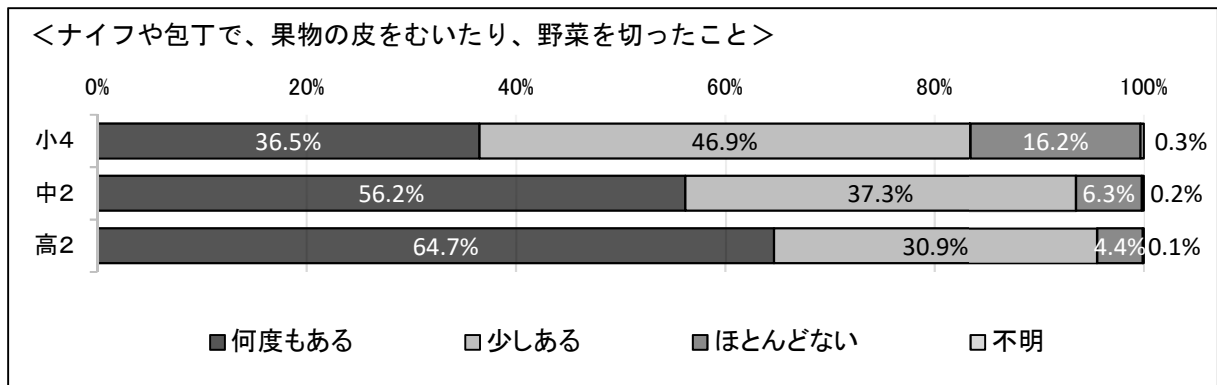
## 第2章 調査の結果

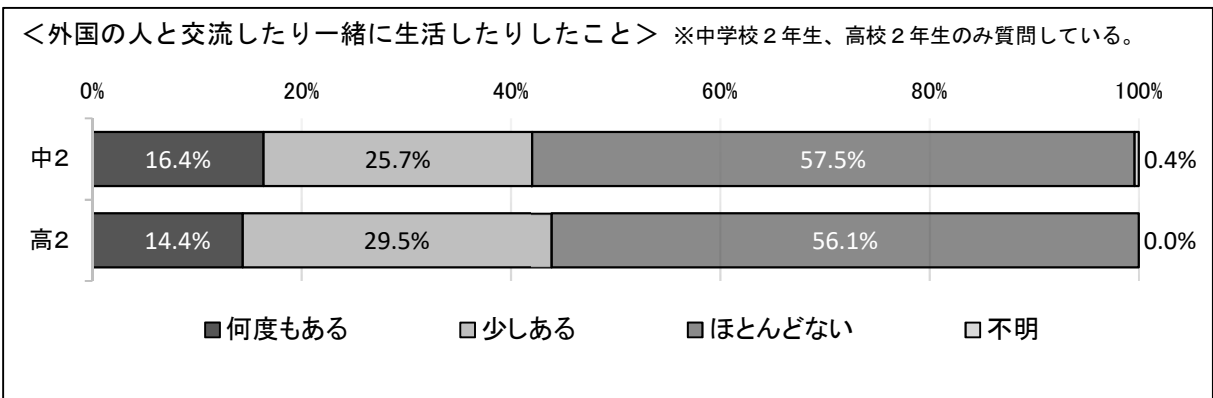
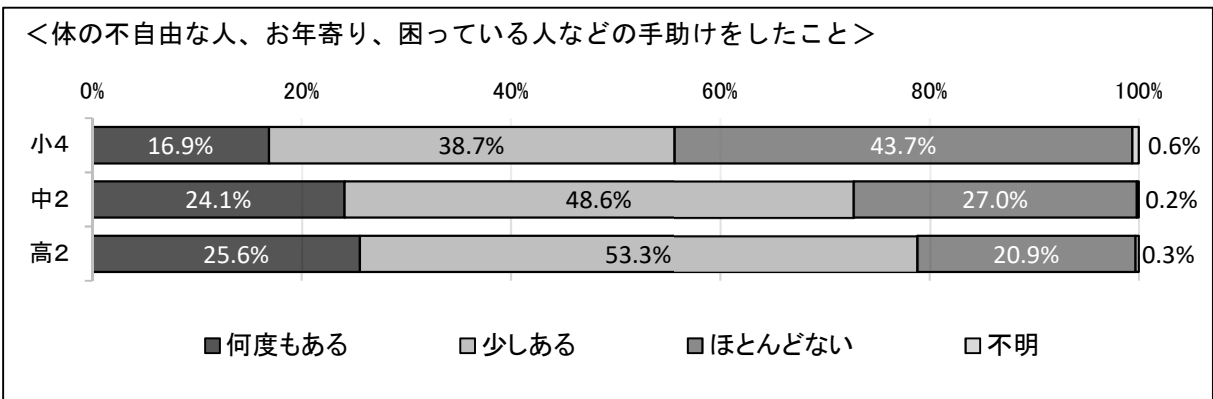
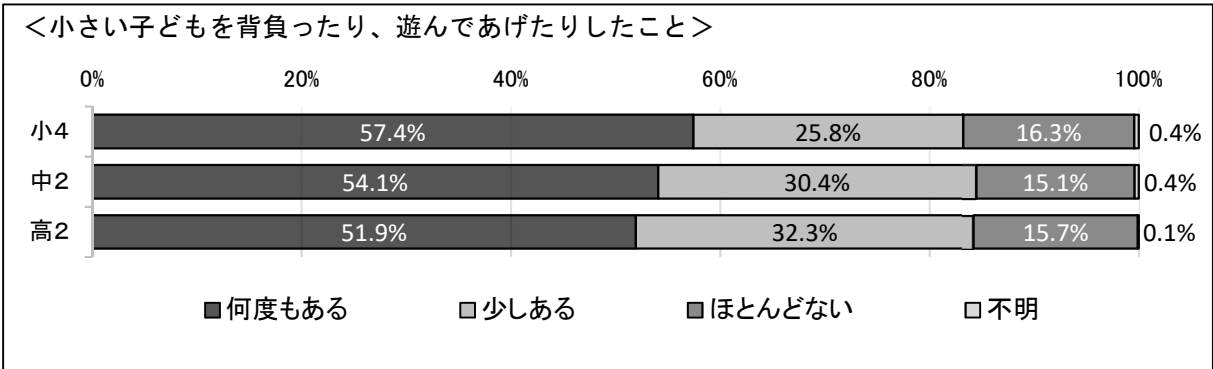
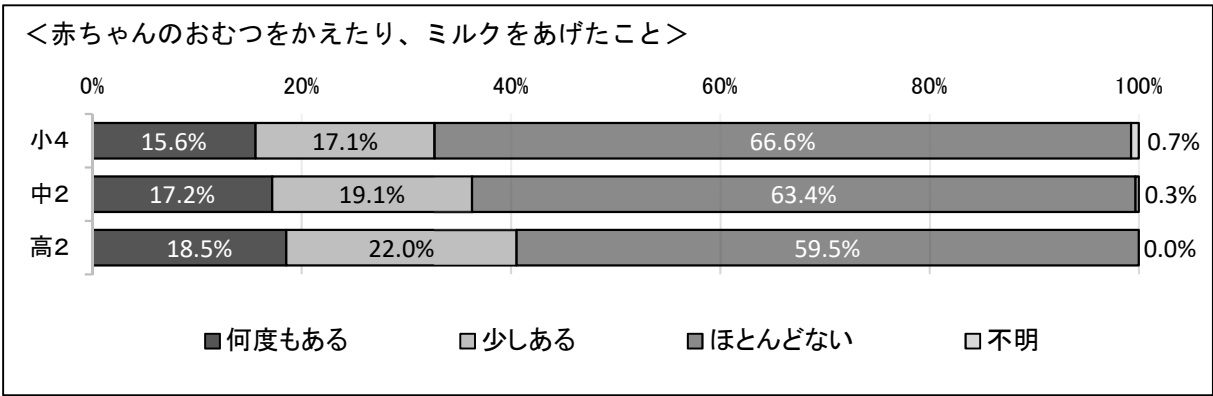
### I 児童生徒対象調査

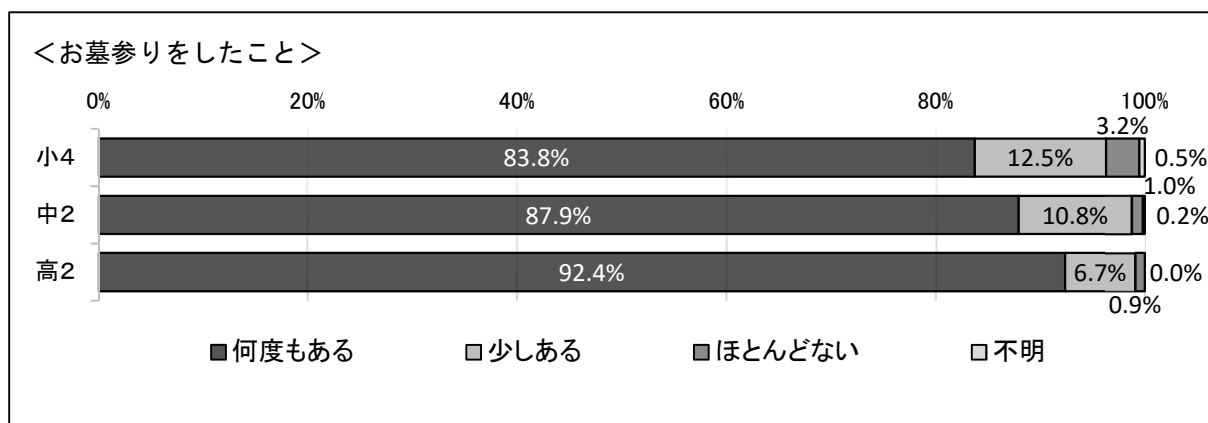
#### 1 回答者の属性



## 2 体験活動について

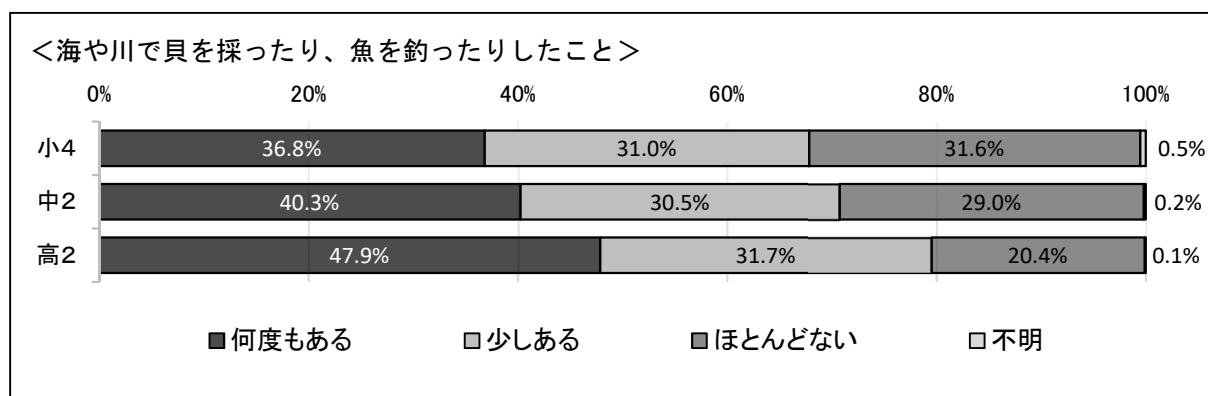
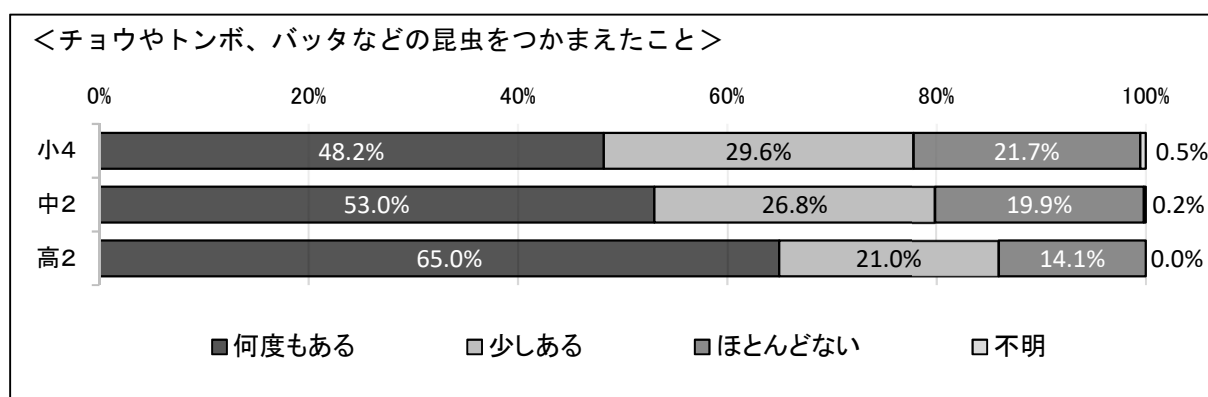




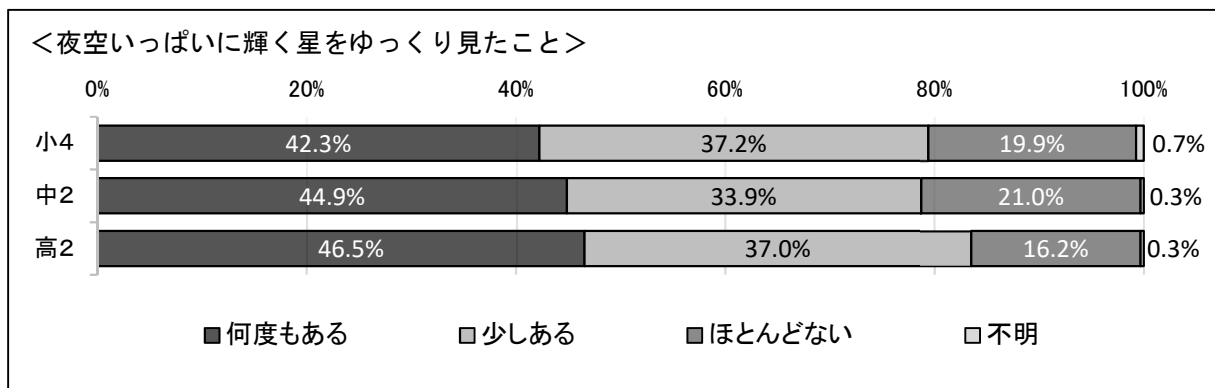
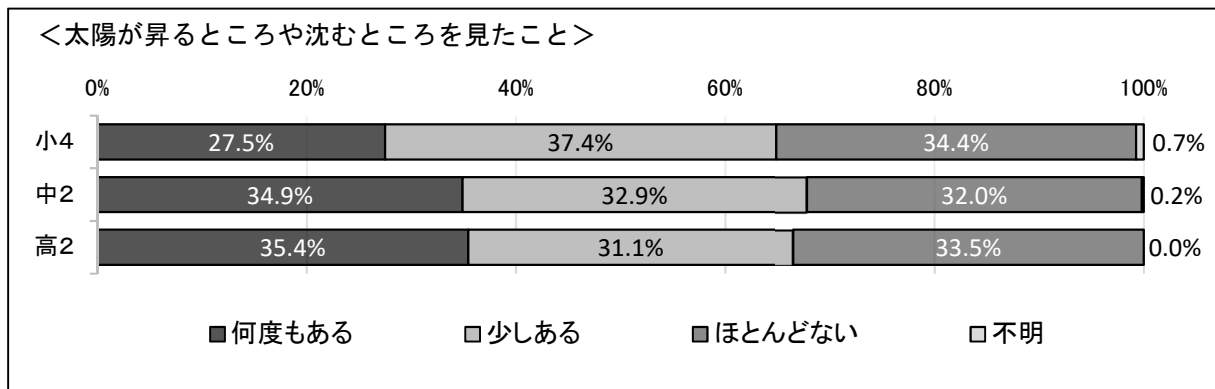
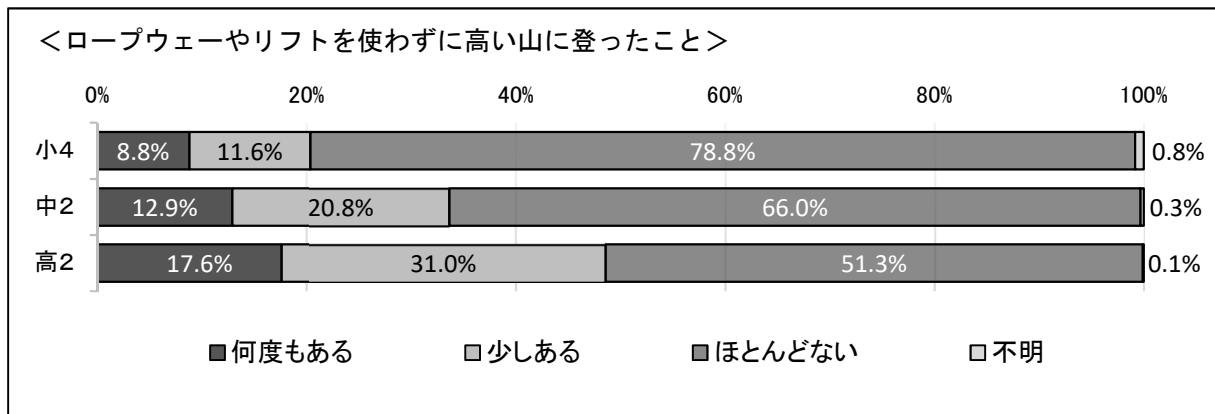
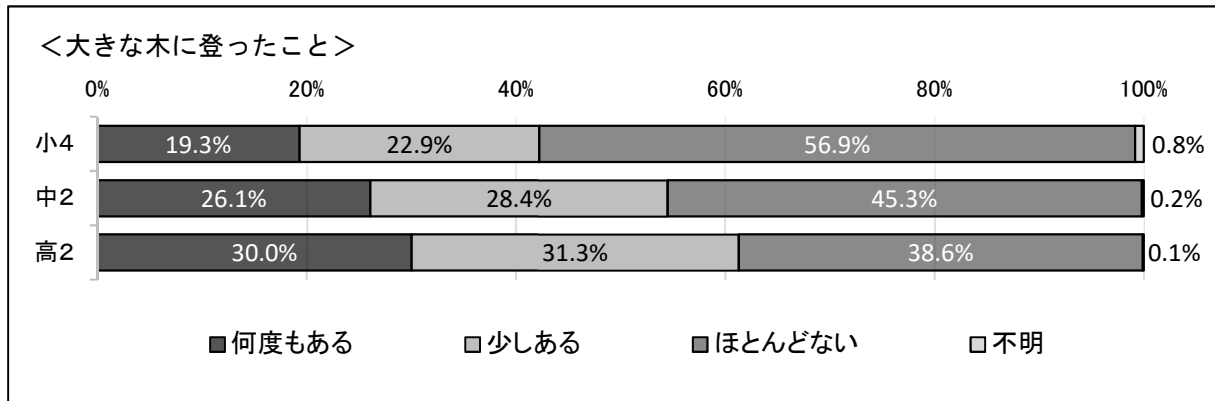


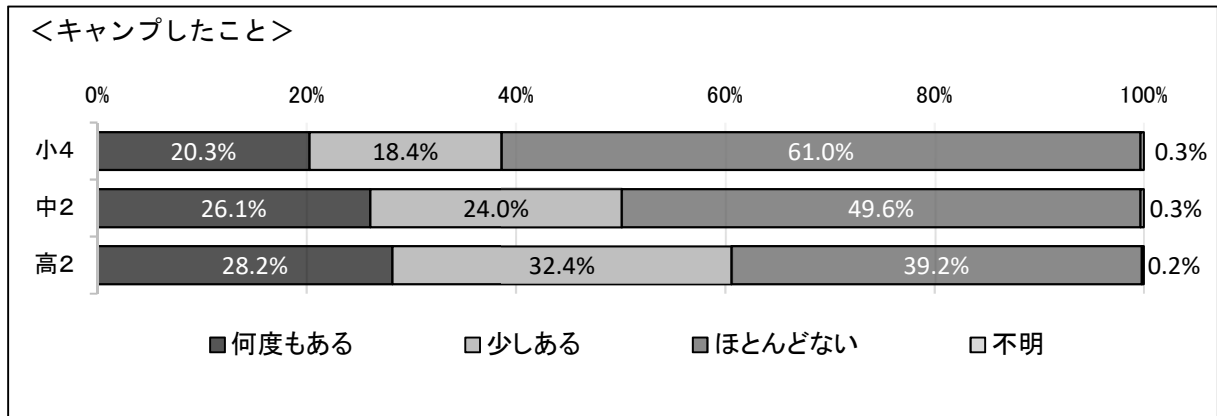
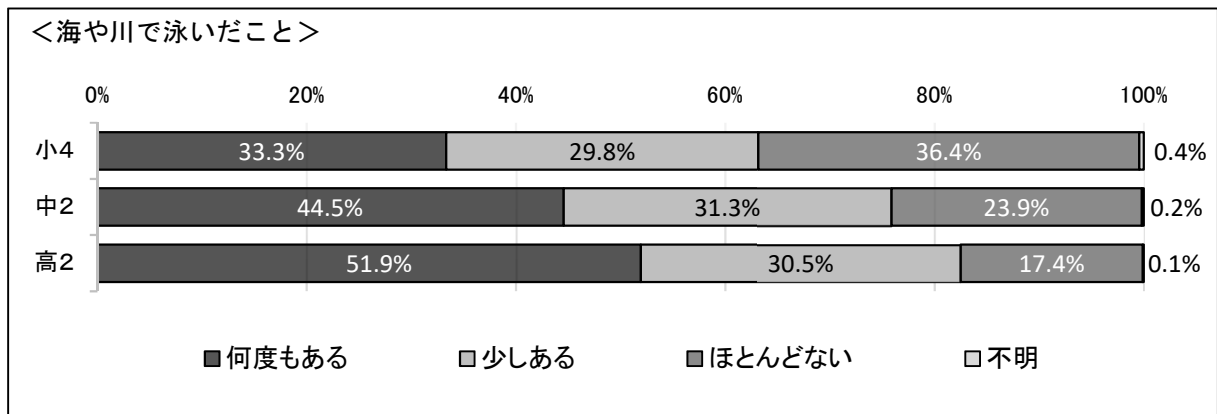
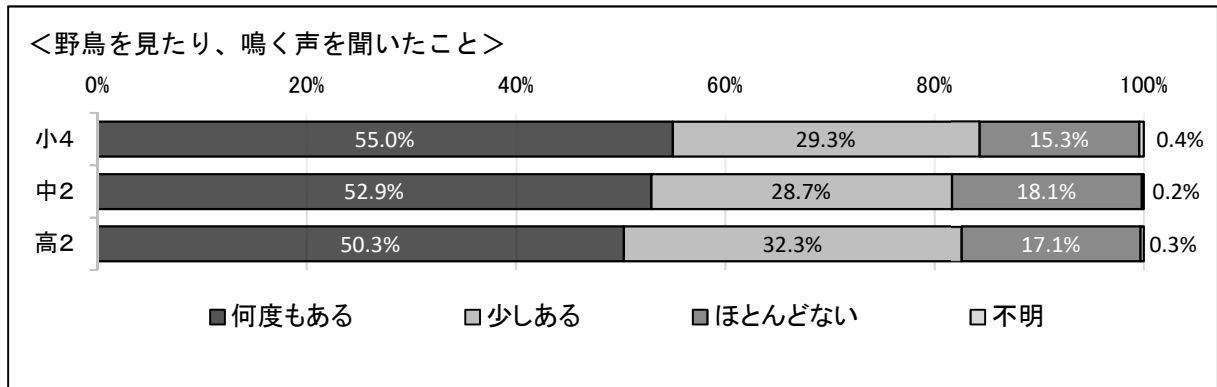
生活体験活動で「何度もある」と回答した割合が最も高かった項目はいずれの学年も「お墓参りをしたこと」であった。特に、高校2年生では9割以上であった。

「何度もある」と回答した割合が最も低い項目は、小学4年生では「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」(15.6%)であり、中学2年生、高校2年生では、「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」(中2：13.4%、高2：12.4%)であった。





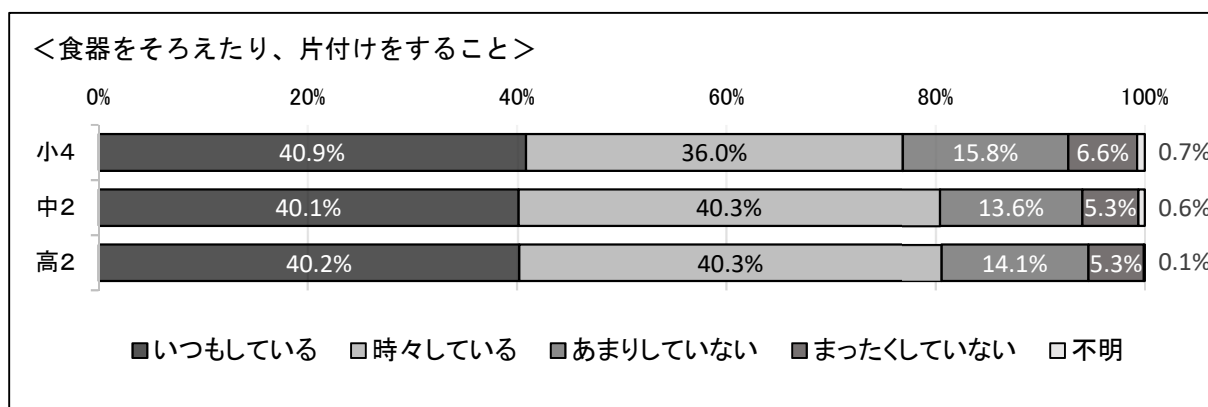
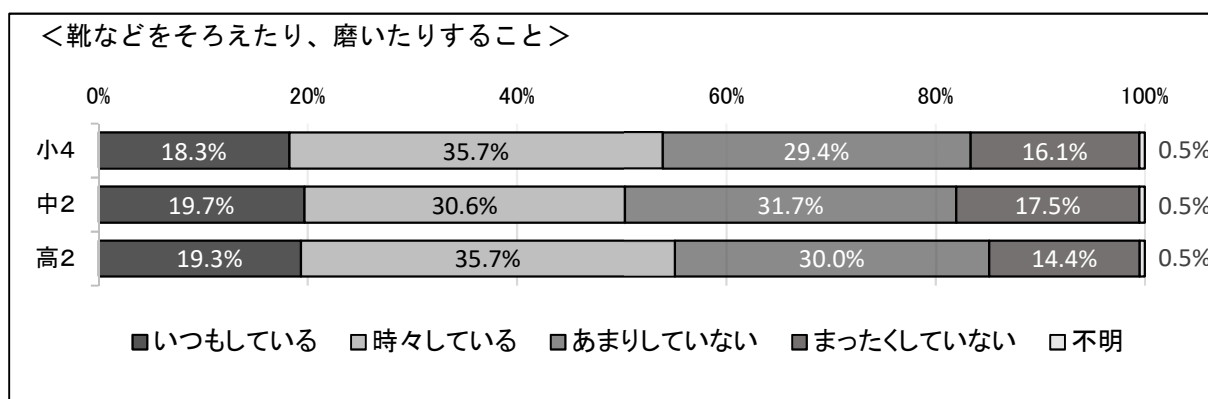
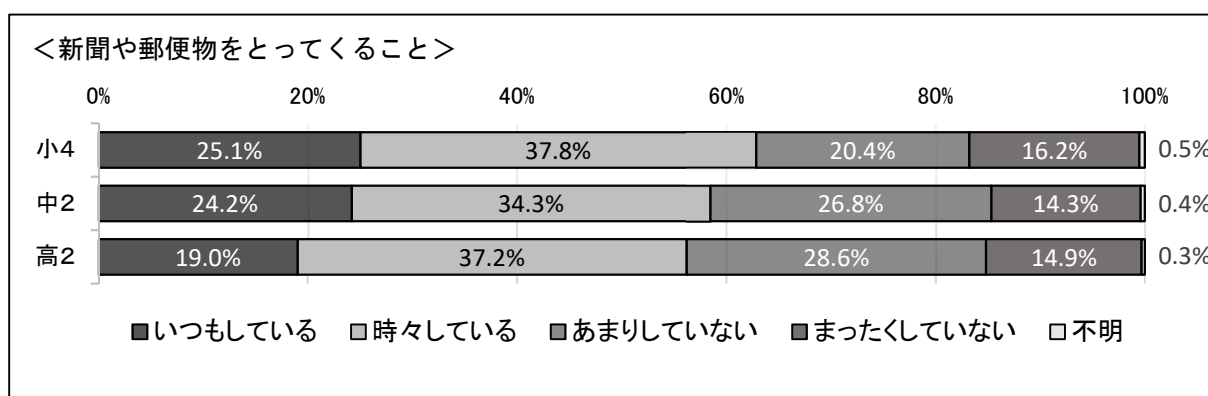
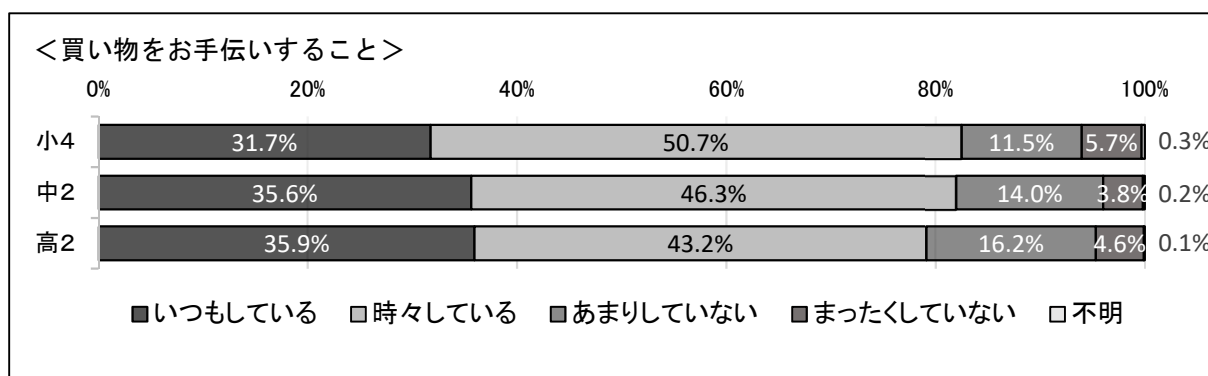


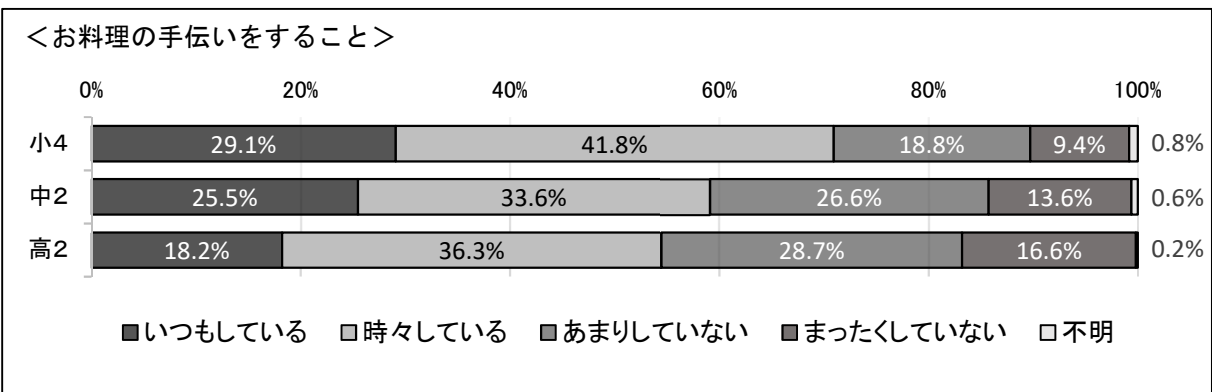
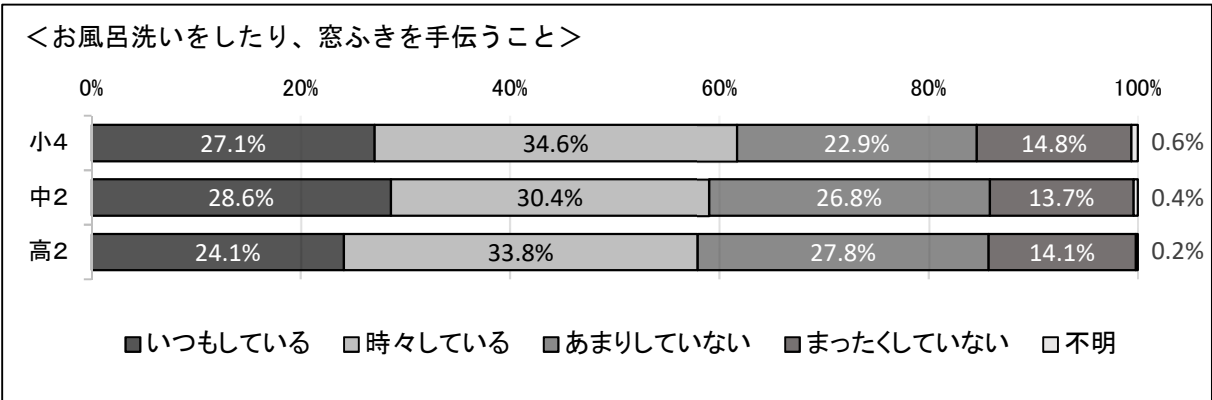
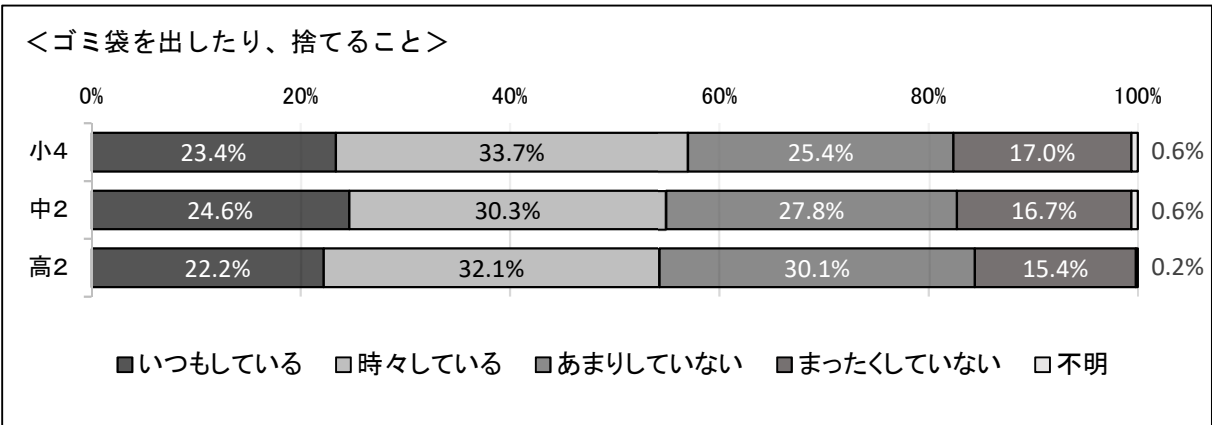
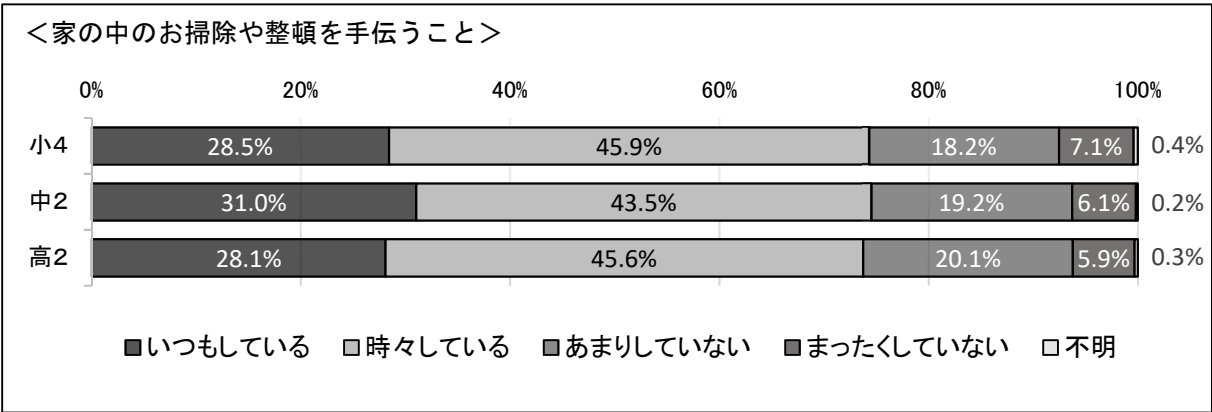


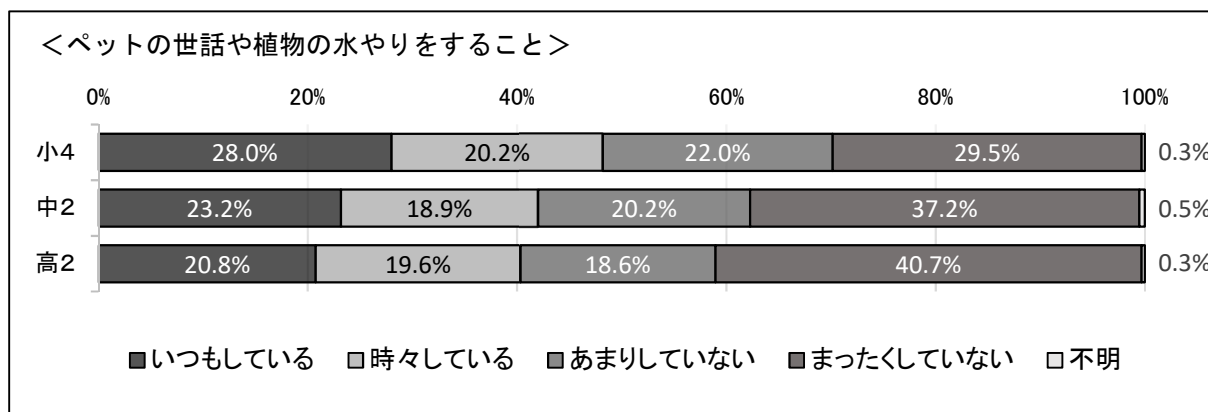
自然体験活動で「何度もある」と回答した割合が最も高かった項目は、小学校4年生では「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」(55.0%)、中学2年生、高校2年生では「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」(中2:53.0%、高2:65.0%)であった。

「何度もある」と回答した割合が最も低かった項目は、いずれの学年も「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」(小4:8.8%、中2:12.9%、高2:17.6%)であった。

### 3 手伝いについて



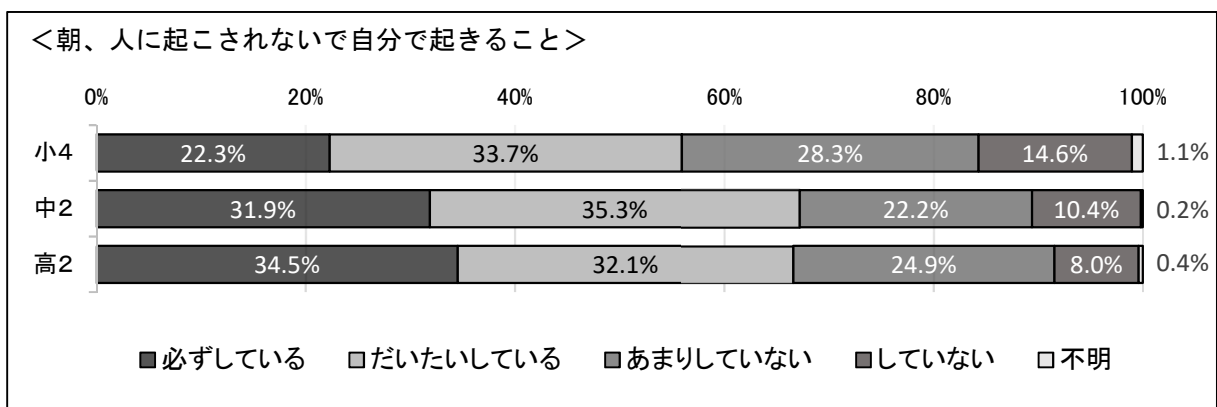
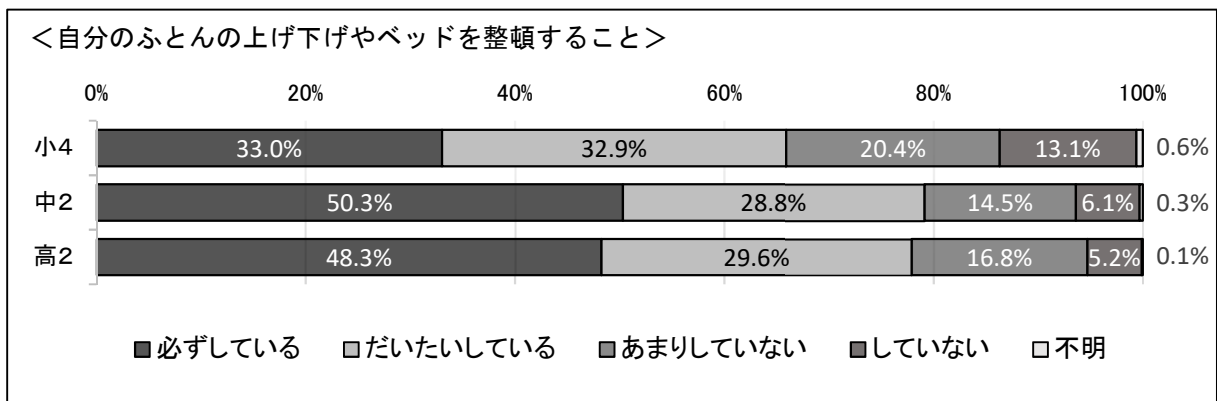
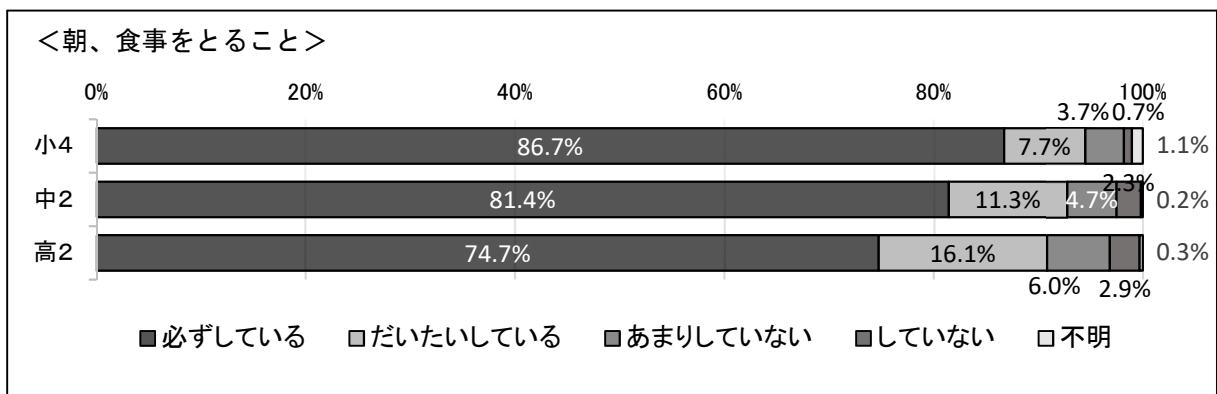
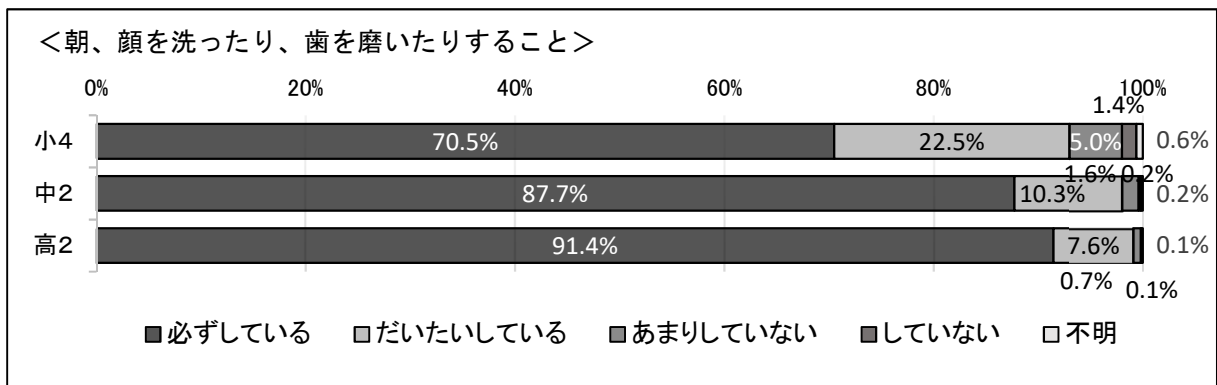




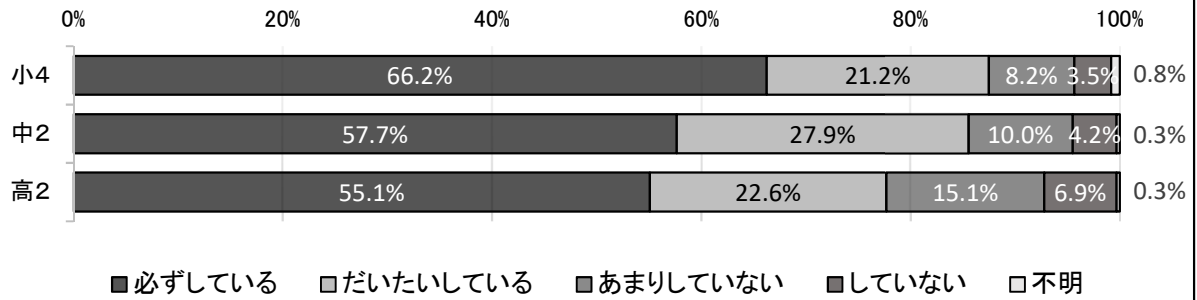
お手伝いについて、「いつもしている」と回答した割合が最も高かった項目は、いずれの学年も「食器をそろえたり、片付けをすること」(小4 : 40.9%、中2 : 40.1%、高2 : 40.2%)であった。

「いつもしている」と回答した割合が最も低かった項目は、小学4年生、中学2年生では、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」(小4 : 18.3%、中2 : 19.7%)、高校2年生では、「お料理の手伝いをすること」(18.2%)であった。

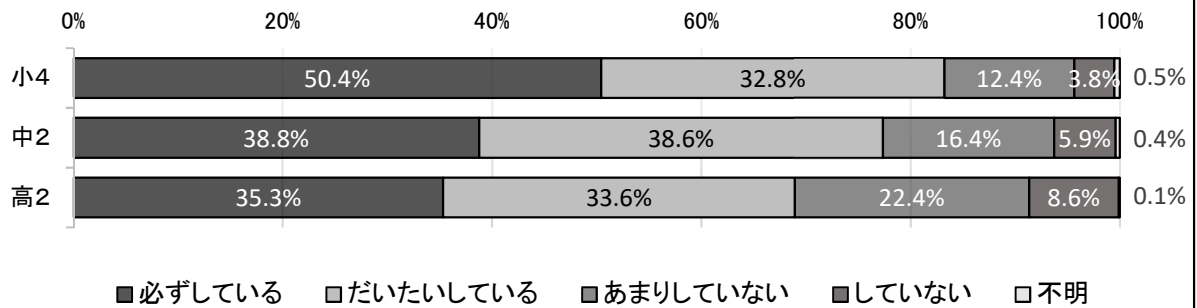
#### 4 生活習慣について



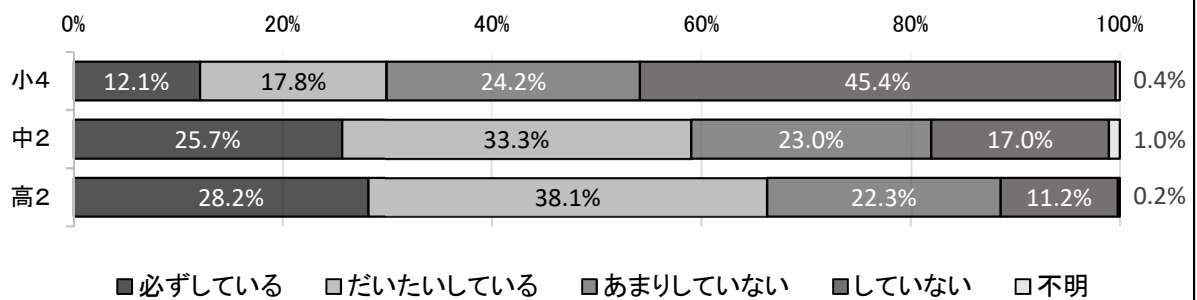
<家で「おはようございます」「いただきます」「いってきます」「ただいま」「おやすみなさい」などのあいさつをすること>



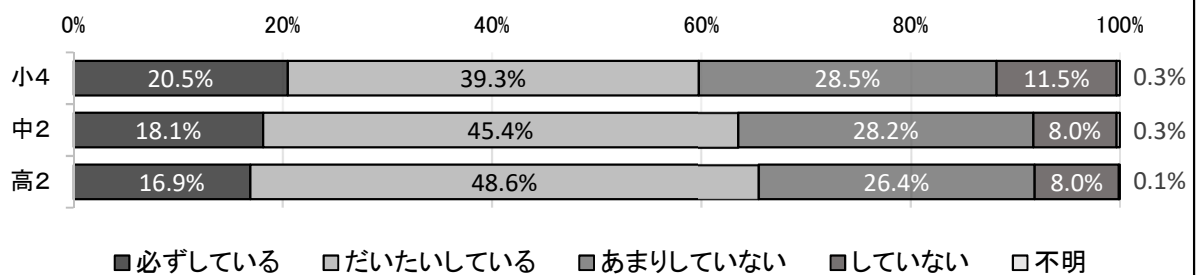
<近所の人や知り合いの人に「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」といったあいさつをすること>

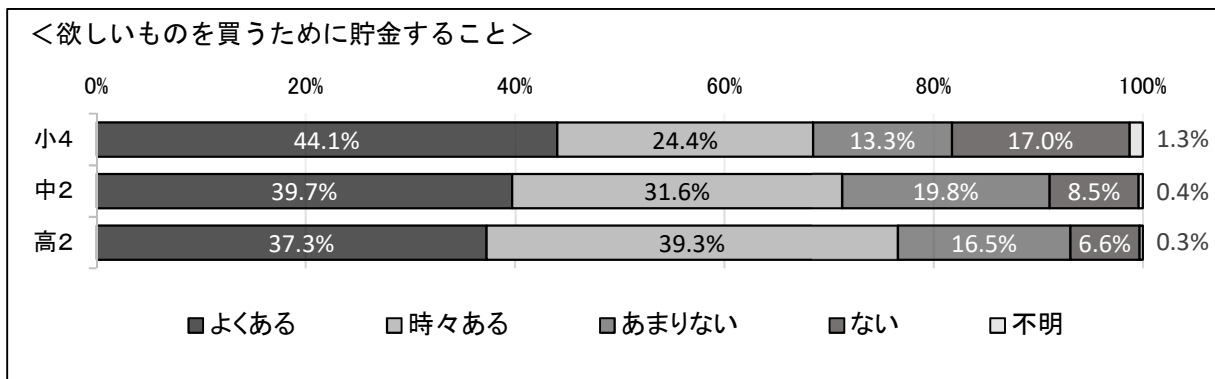
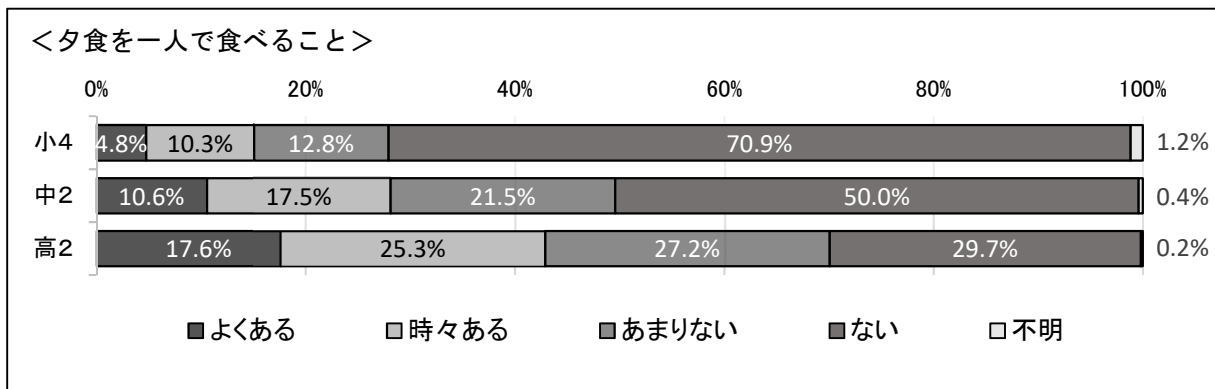
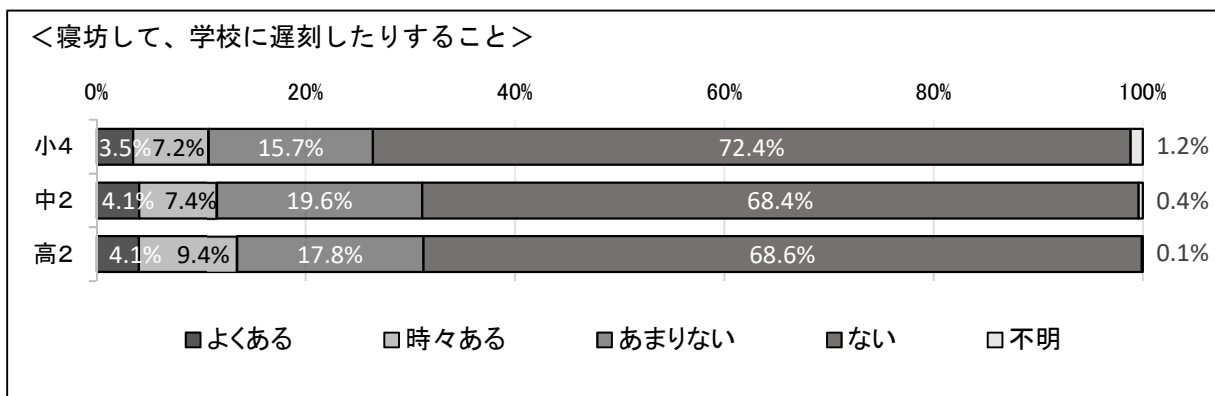
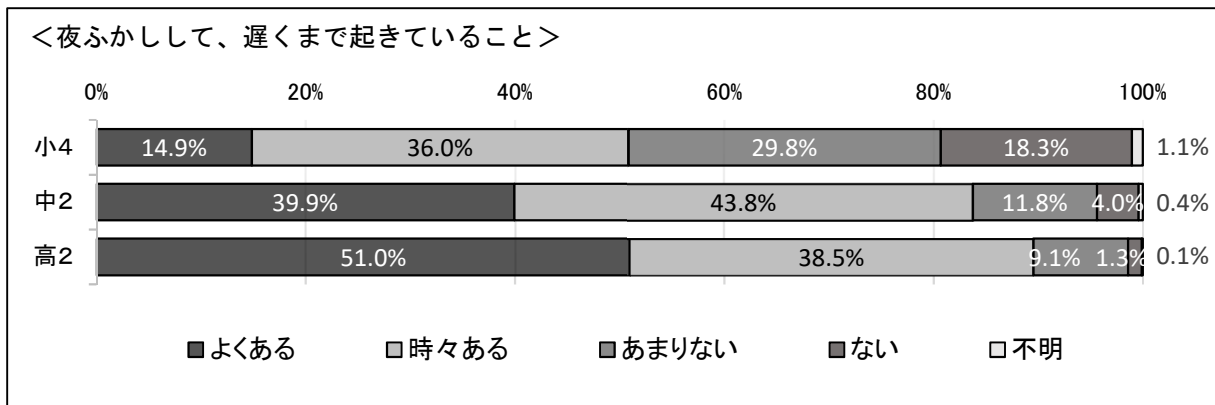


<バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること>

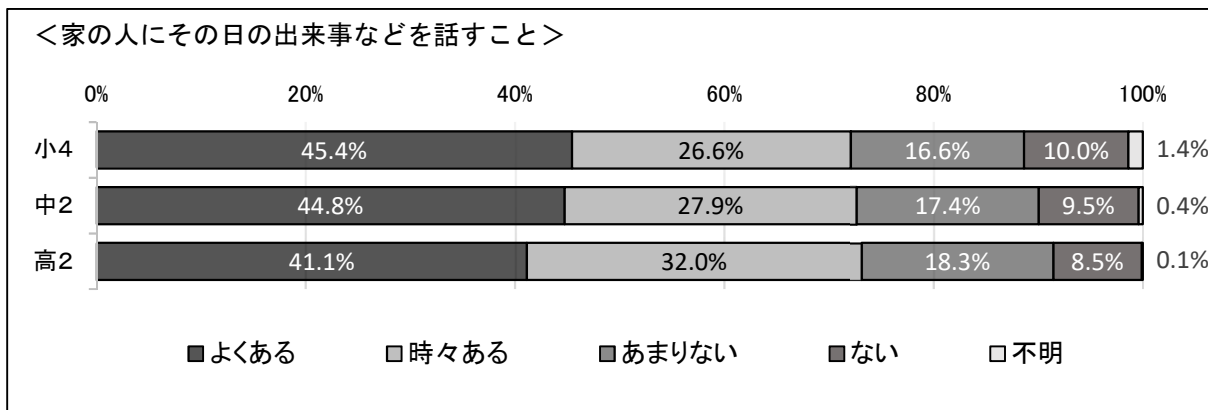
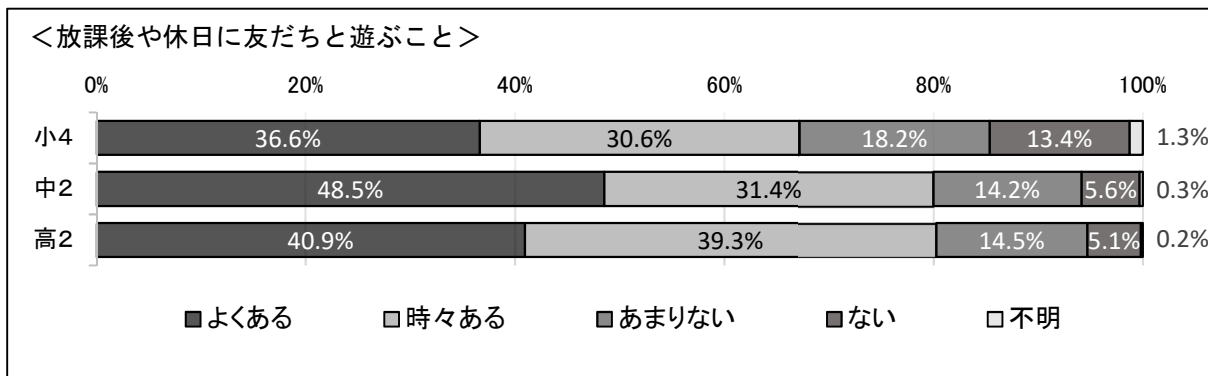
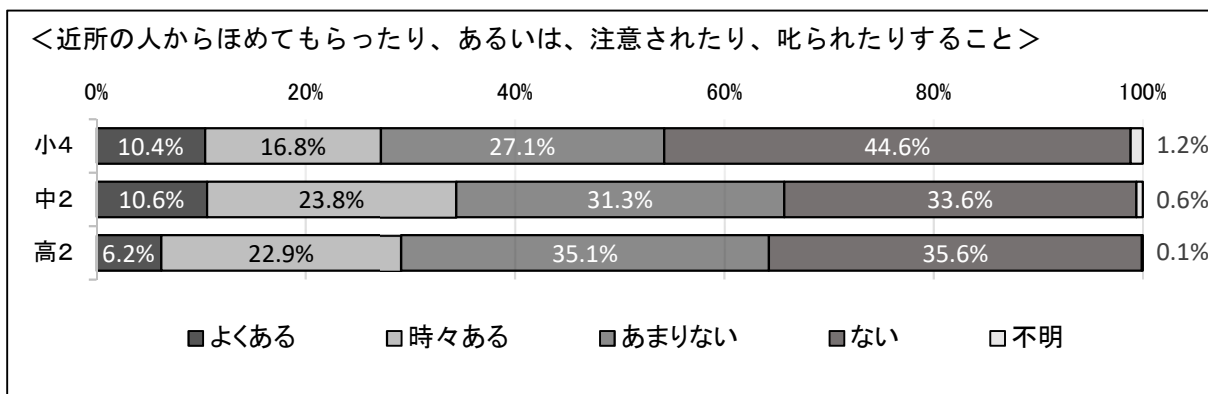
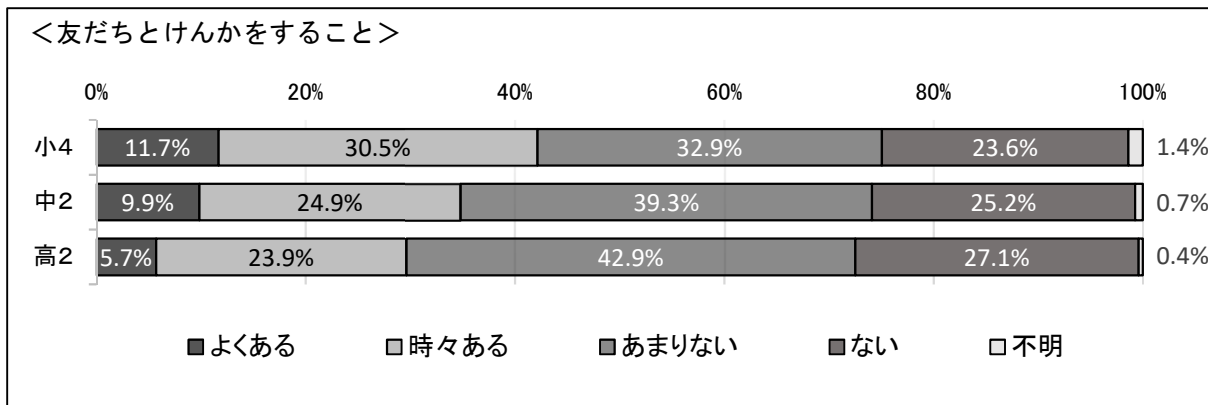


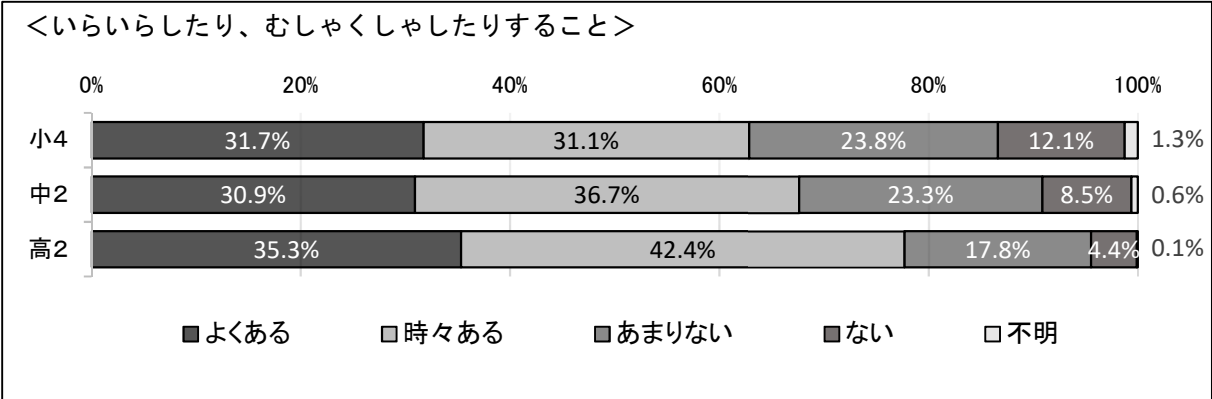
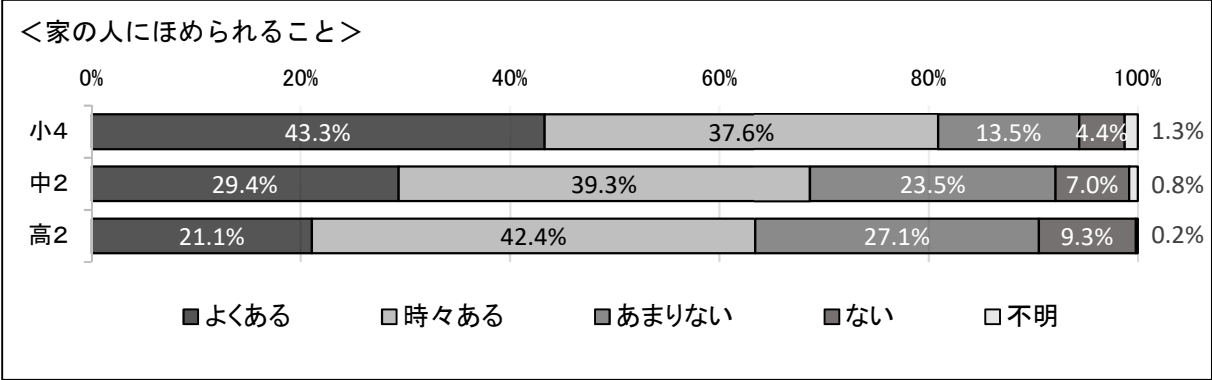
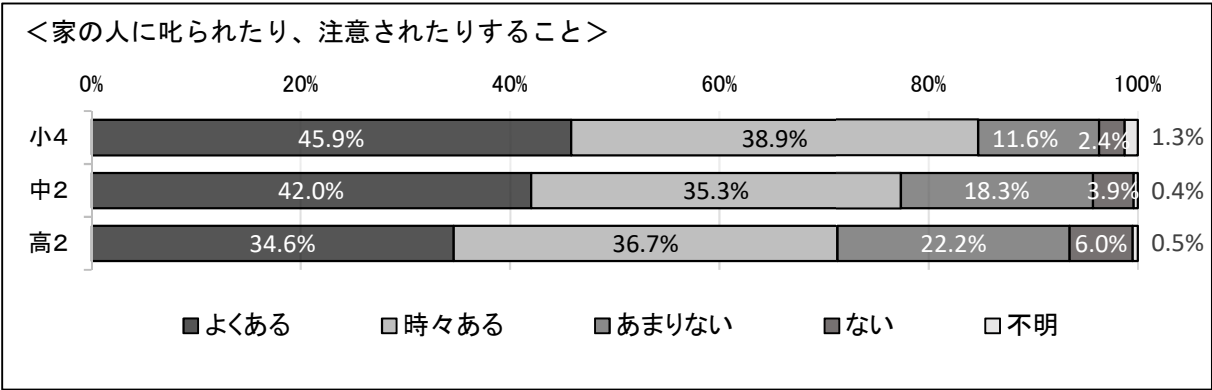
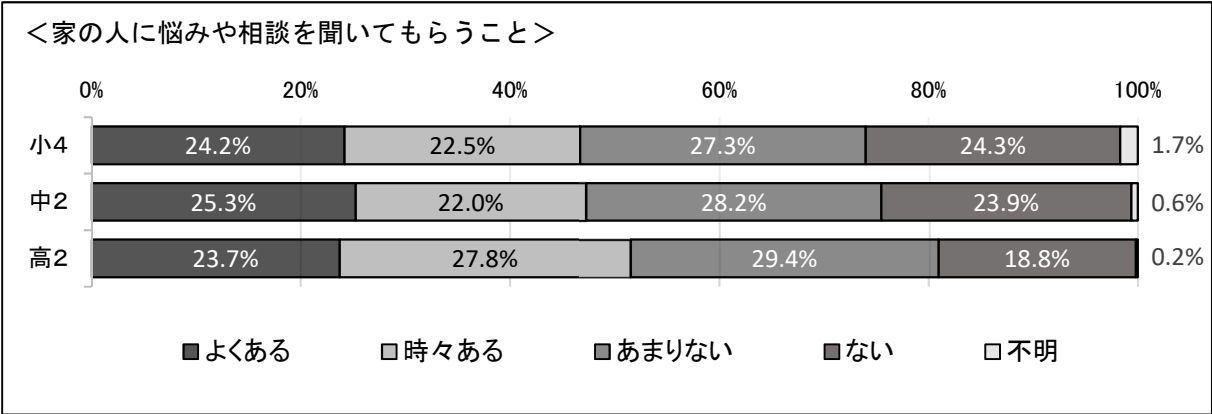
<友達が悪いことをしていたら、やめさせること>

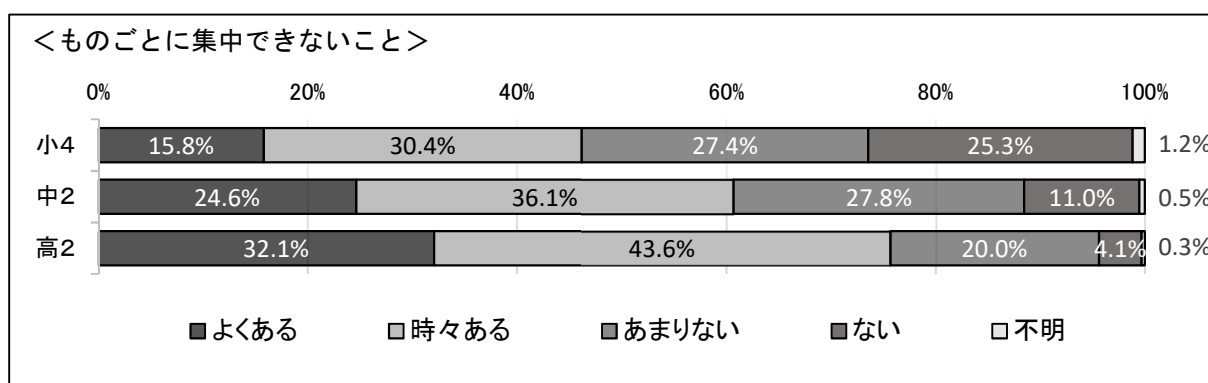
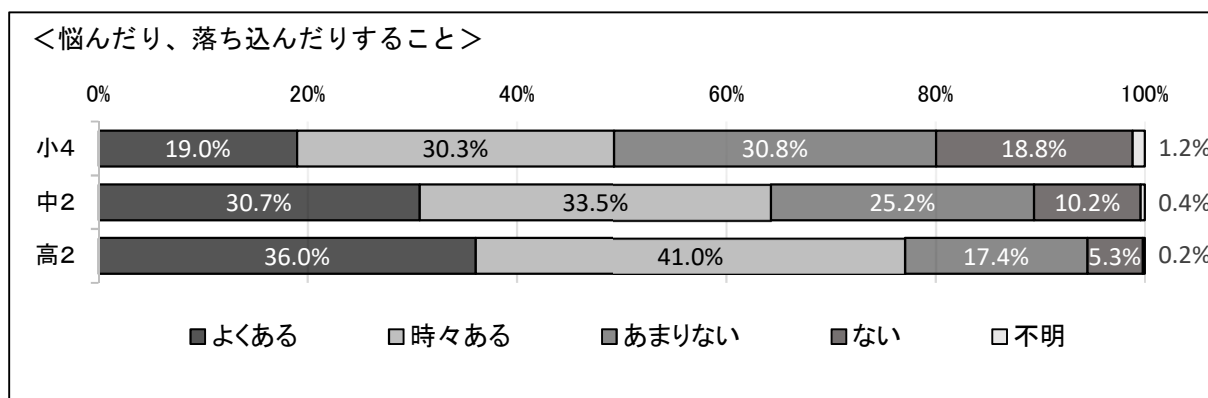










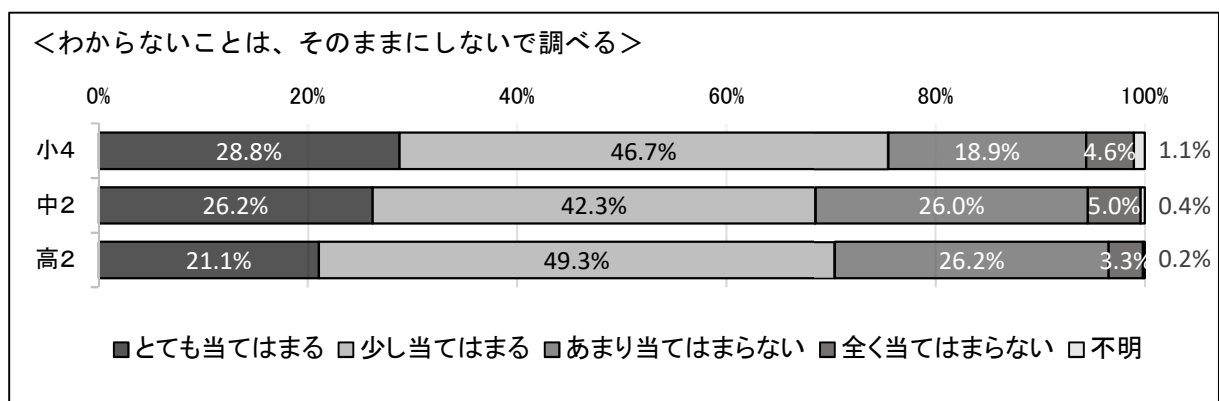
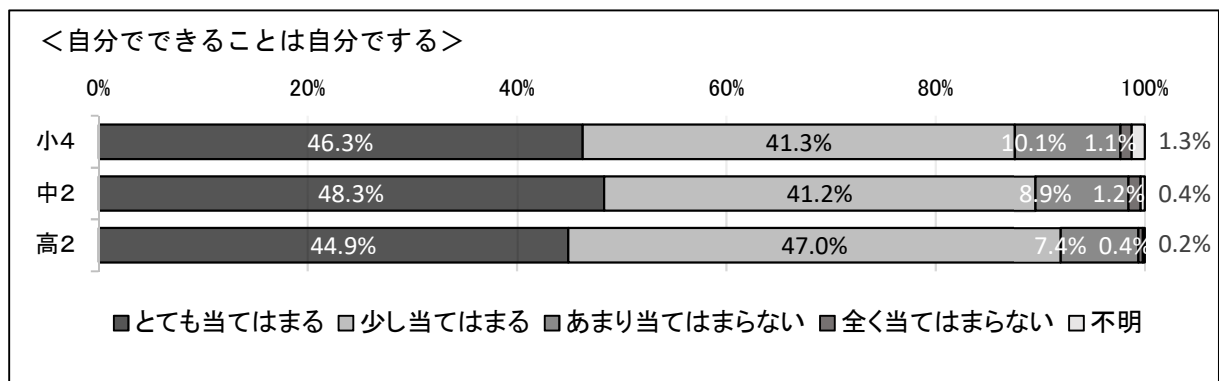
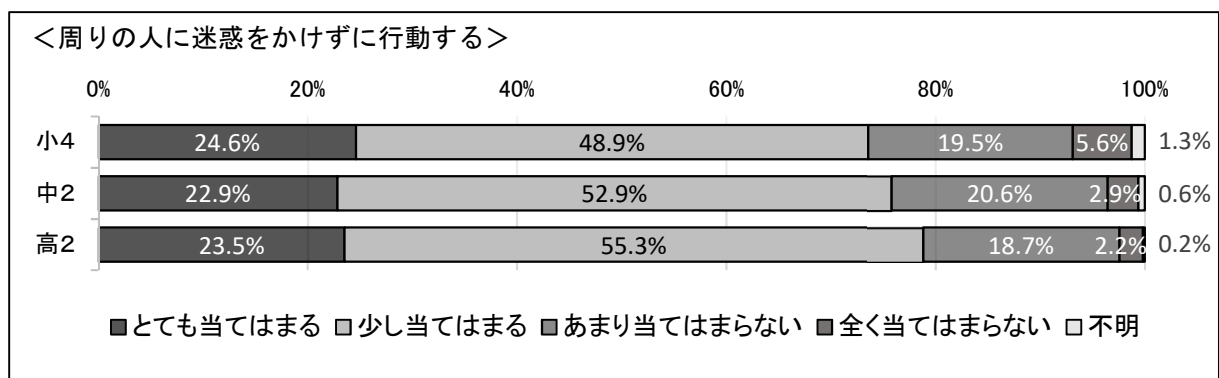
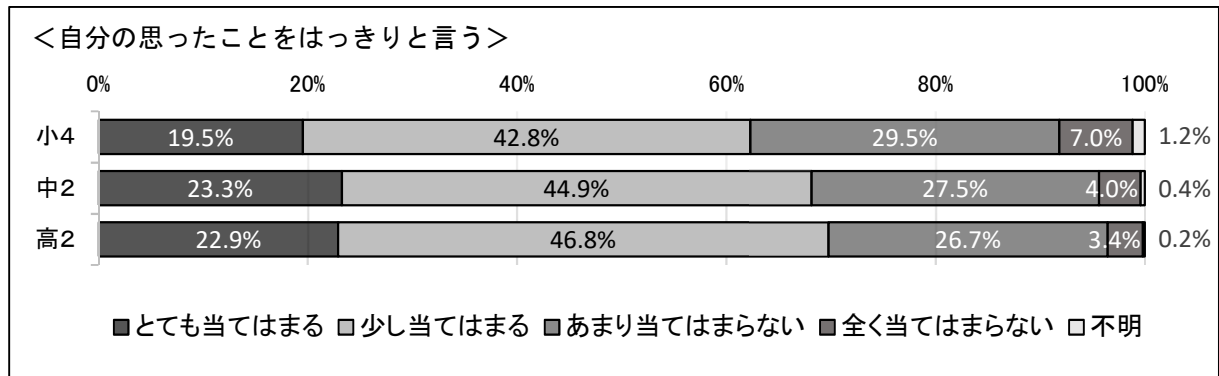


生活習慣については、「必ずしている」もしくは「よくある」と回答した割合が最も高かった項目は、小学4年生では「朝、食事をとること」(86.7%)、中学校2年生及び高校2年生では「朝、顔を洗ったり、歯を磨いたりすること」(中2：87.7%、高2：91.4%)であった。

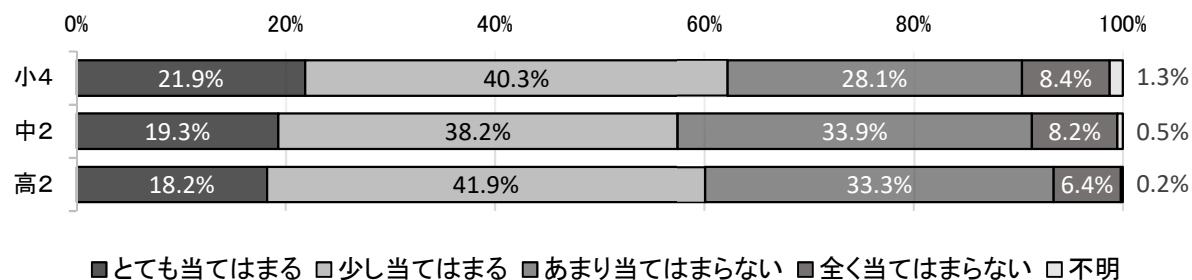
学校段階が上がるにつれて、「必ずしている」もしくは「よくある」と回答した割合が高くなる項目は「夜ふかしして、遅くまで起きていること」(小4：14.9%、中2：39.9%、高2：51.0%)、「夕食を一人で食べること」(小4：4.8%、中2：10.6%、高2：17.6%)、「悩んだり、落ち込んだりすること」(小4：19.0%、中2：30.7%、高2：36.0%)、「ものごとに集中できないこと」(小4：15.8%、中2：24.6%、高2：32.1%)であった。

学年が進むにつれて、「必ずしている」「よくある」と回答した割合が低くなる項目は「家の人に叱られたり注意されたりすること」(小4：45.9%、中2：42.0%、高2：34.6%)、「家の人にほめられること」(小4：43.3%、中2：29.4%、高2：21.1%)であった。

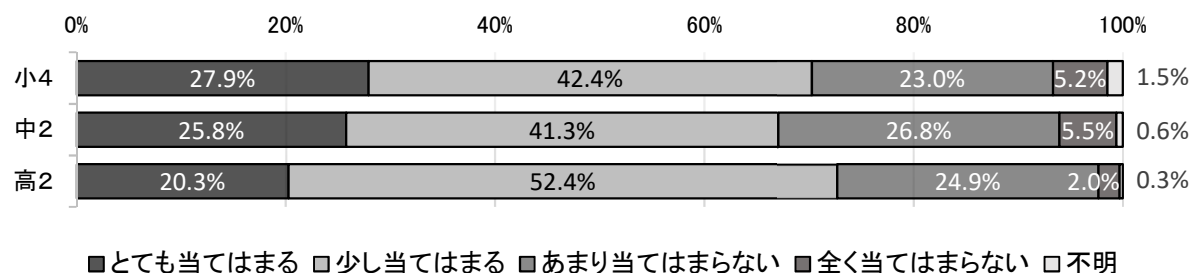
## 5 自分自身のことについて



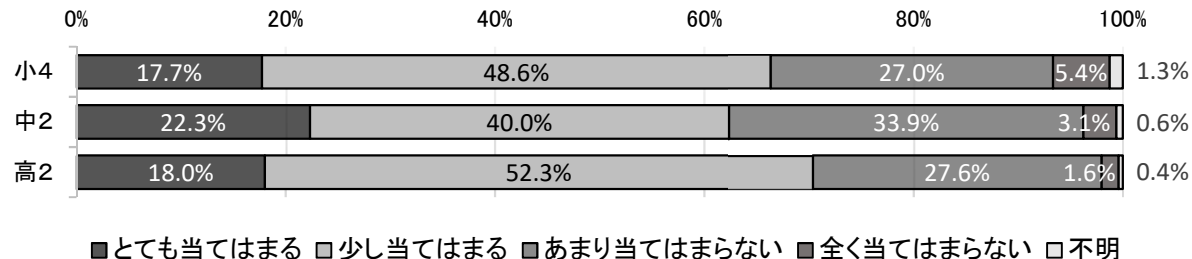
<先のことを考えて、自分の計画を立てる>



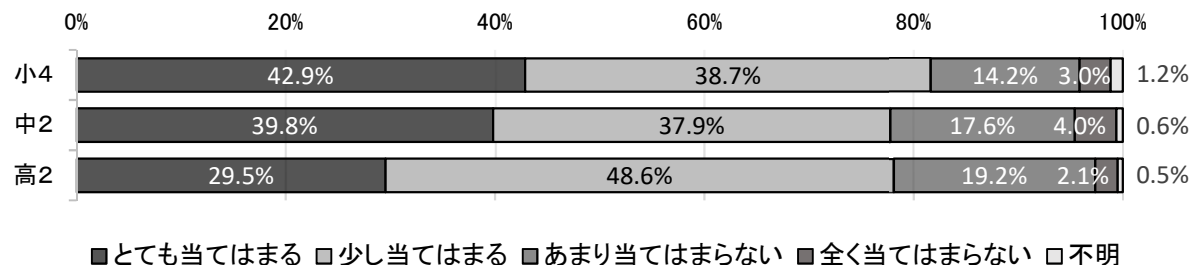
<困ったときでも前向きに取り組む>



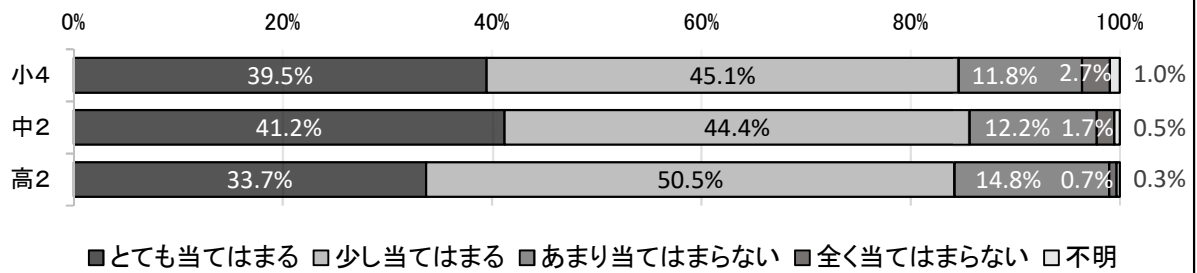
<人から言われなくても、自分から進んでやる>



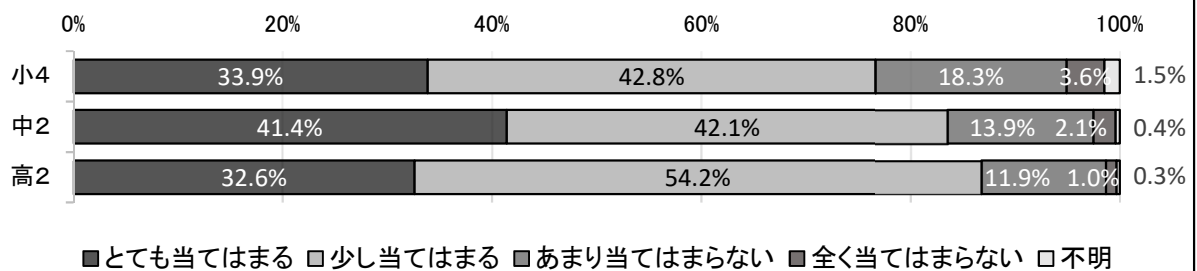
<誰とでも協力してグループ活動をする>



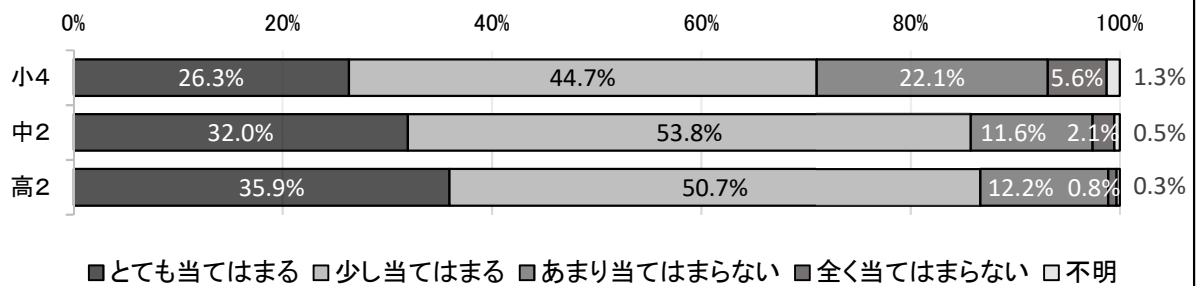
<人の話をきちんと聞く>



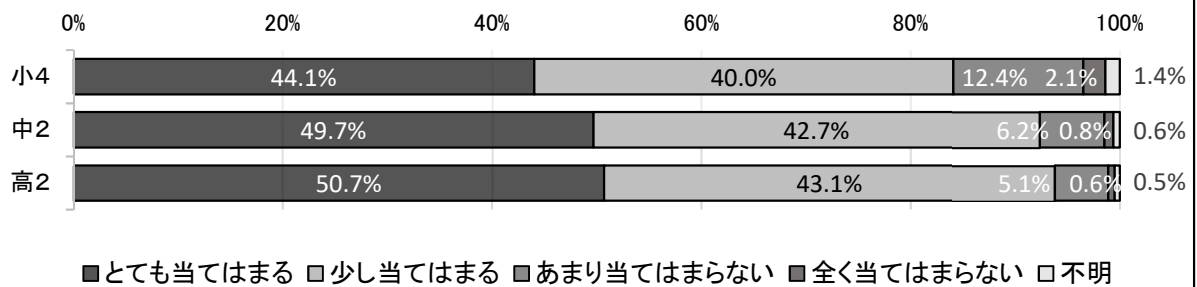
<困っている人がいたときに手助けをする>

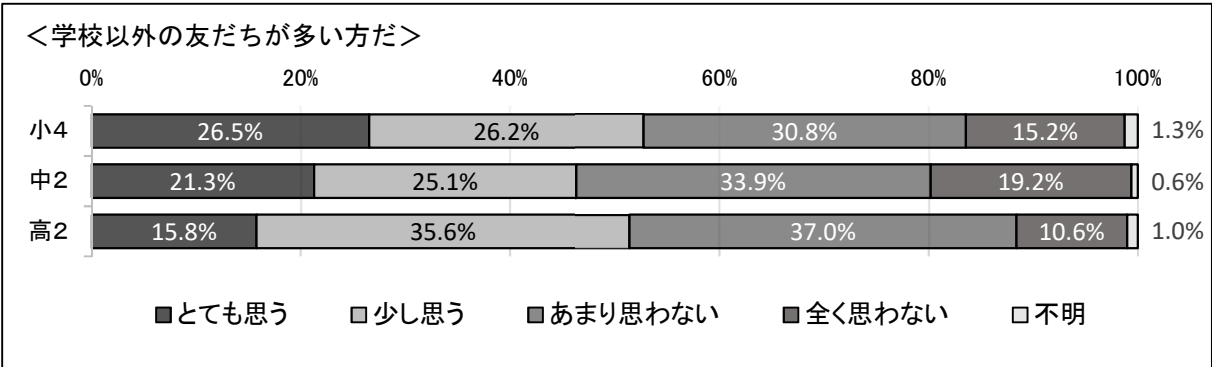
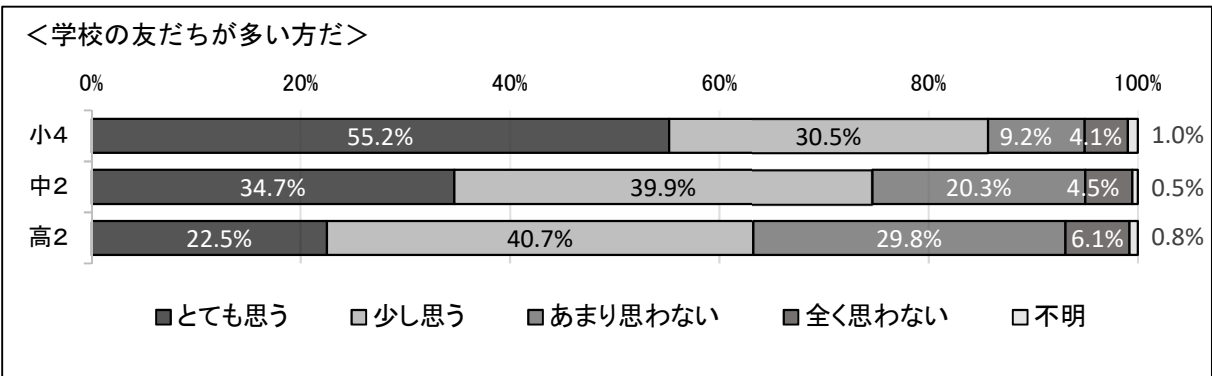
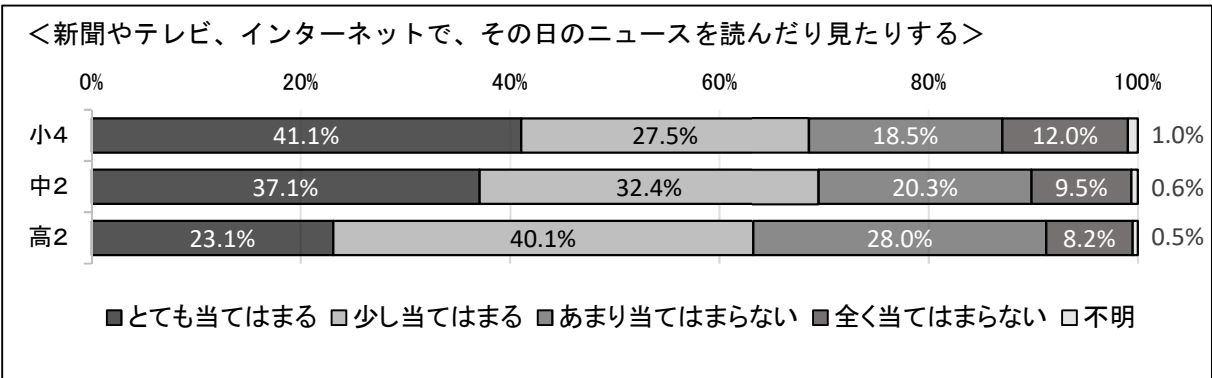
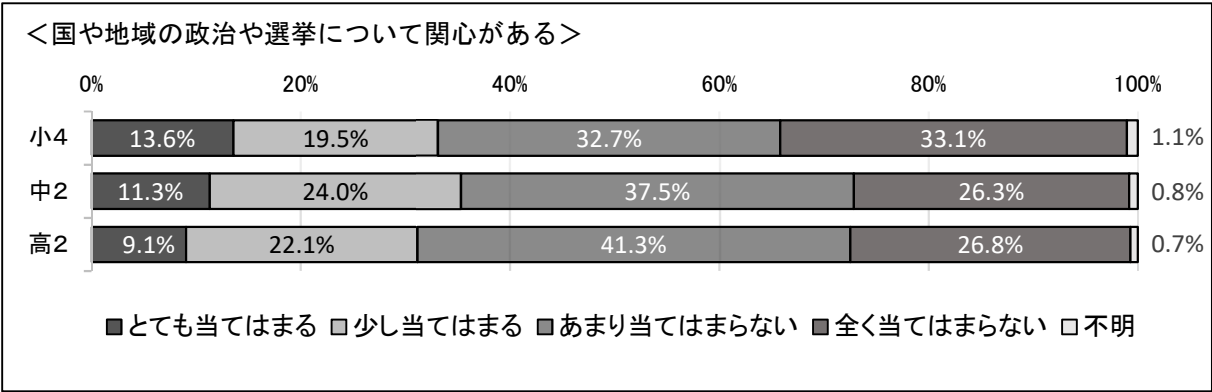


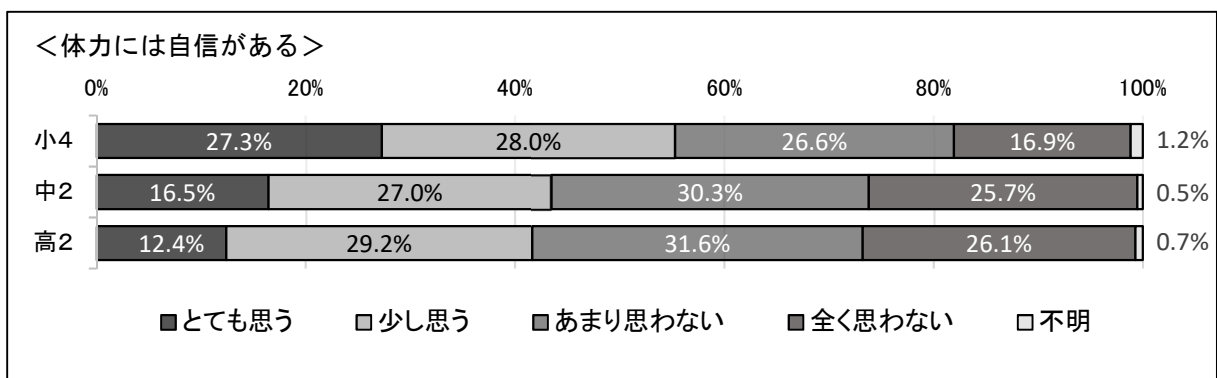
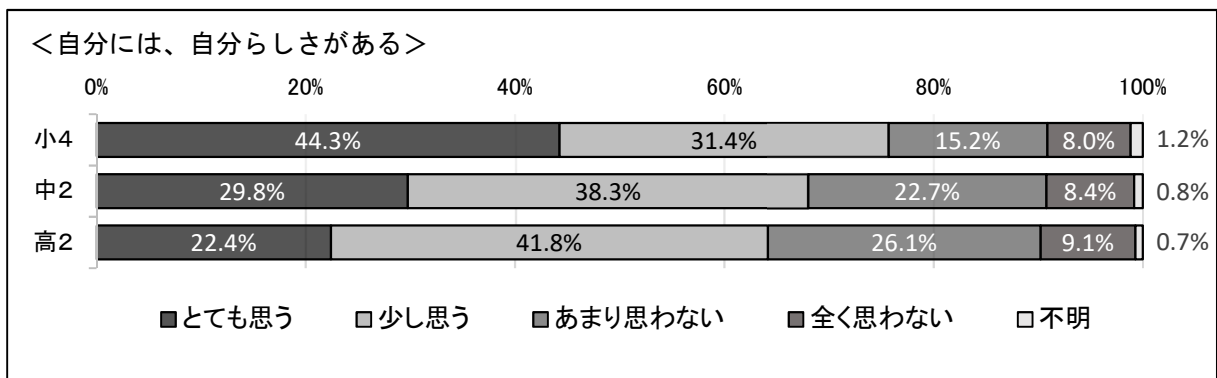
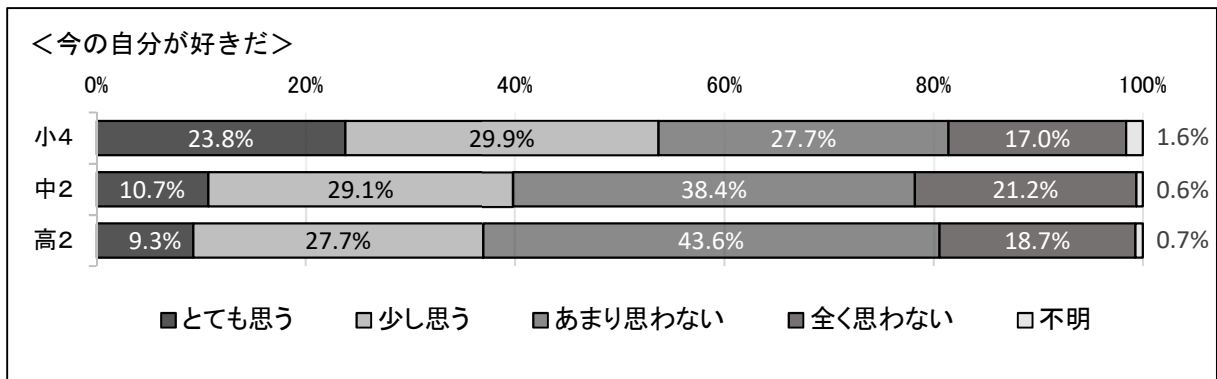
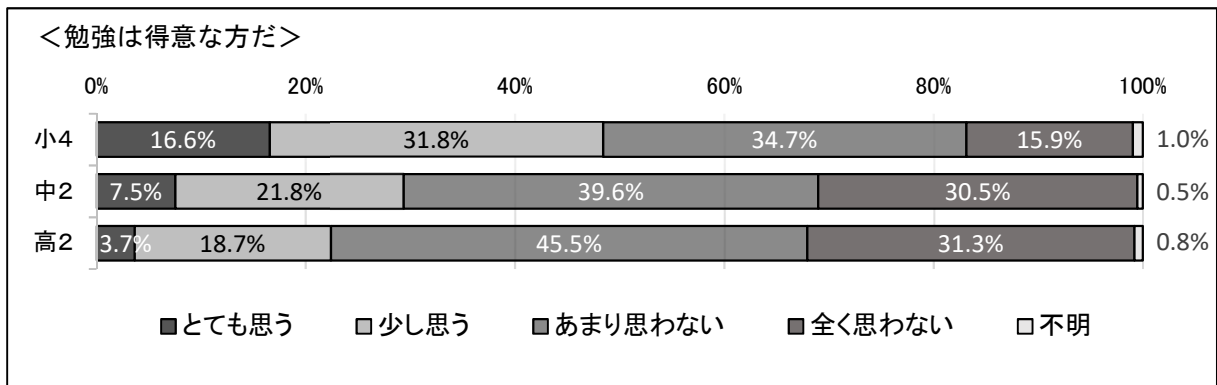
<相手の立場になって考える>



<ルールを守って考える>





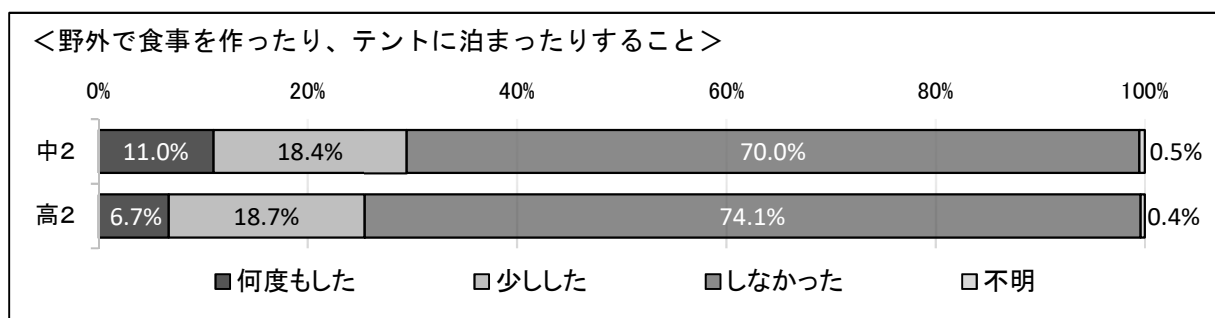
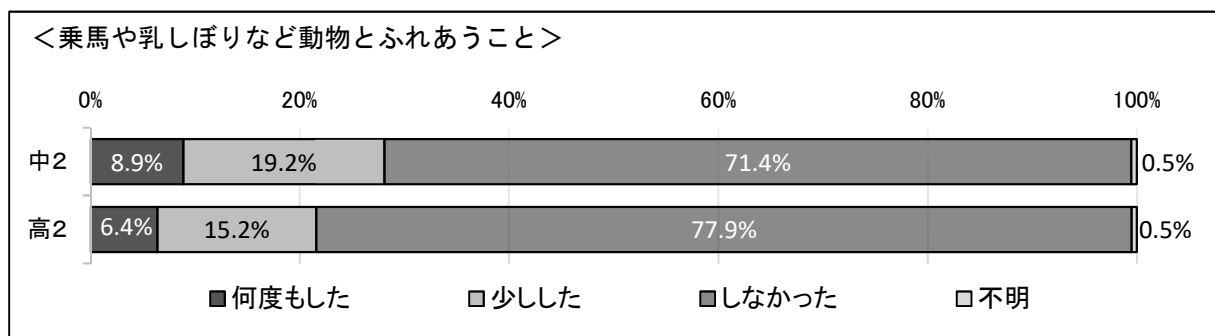
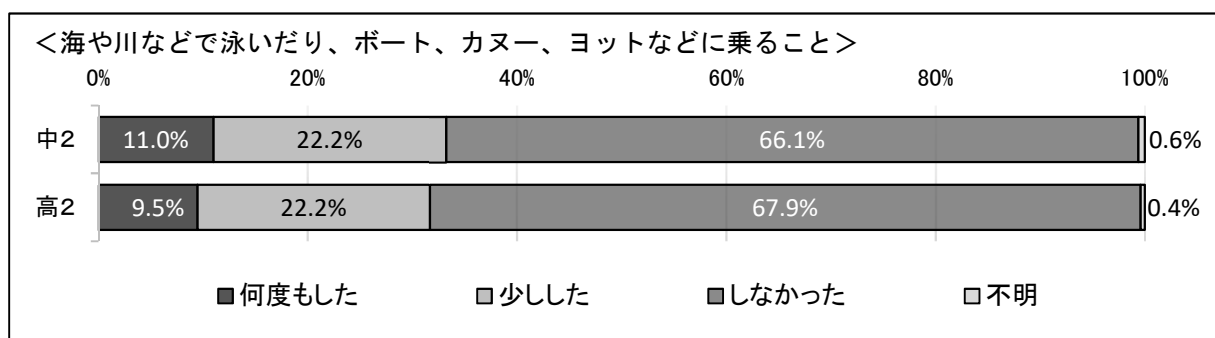
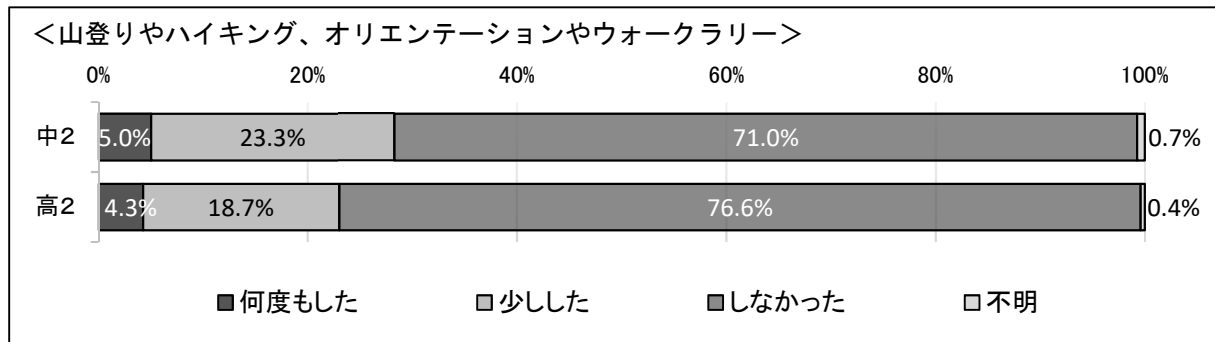


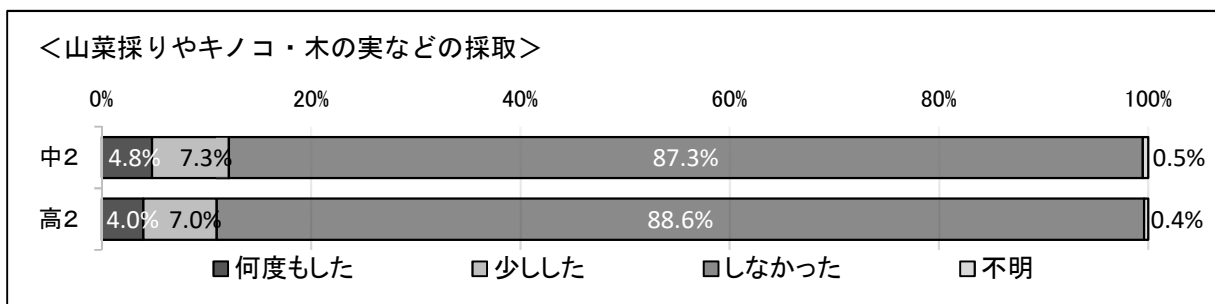
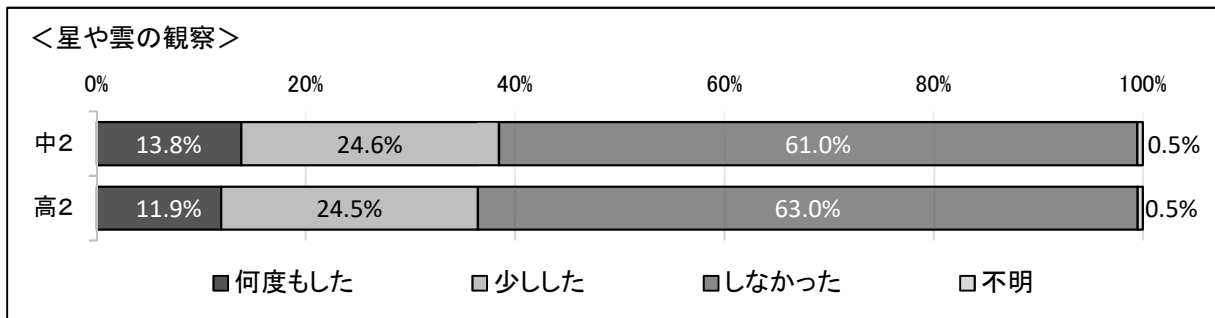
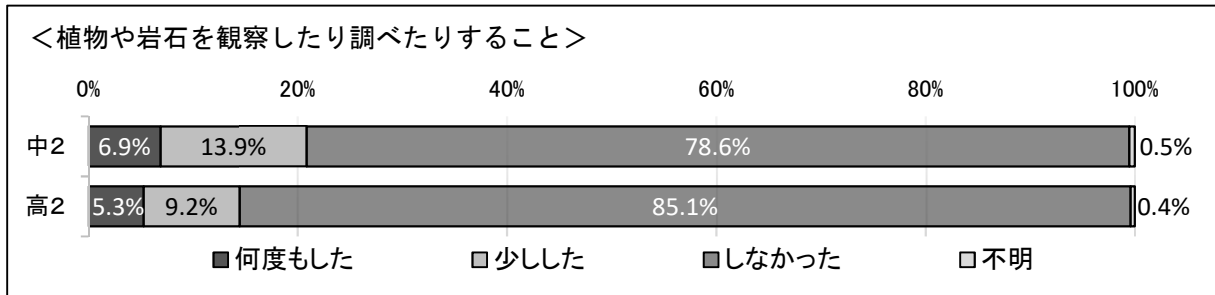
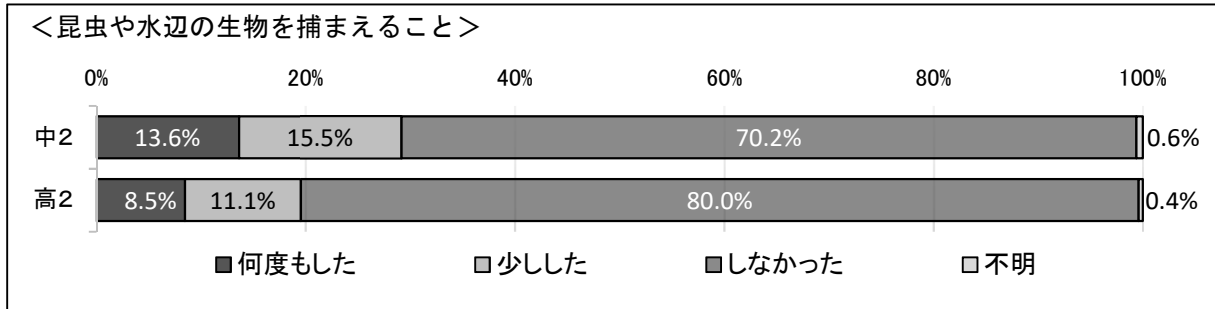
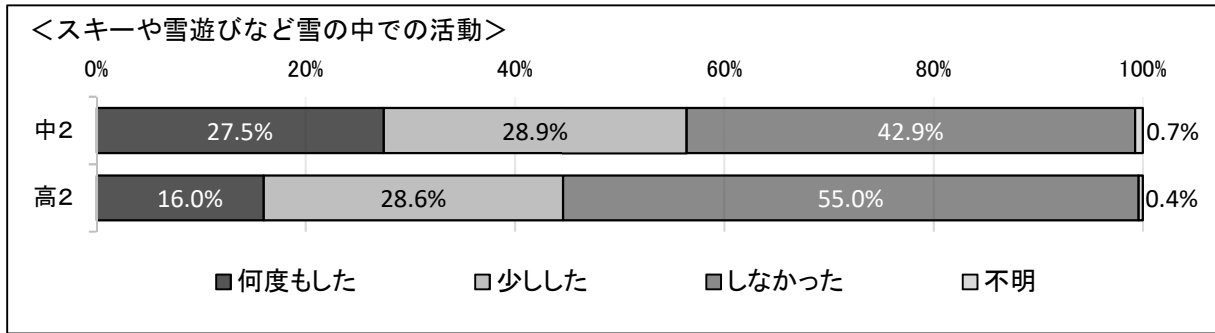
自分自身のことについて、「とても当てはまる」「とても思う」と回答した割合が最も高かった項目は、小学4年生では「自分でできることは自分でする」(46.3%)、中学校2年生及び高校2年生では「ルールを守って考える」(中2:49.7%、高2:50.7%)であった。

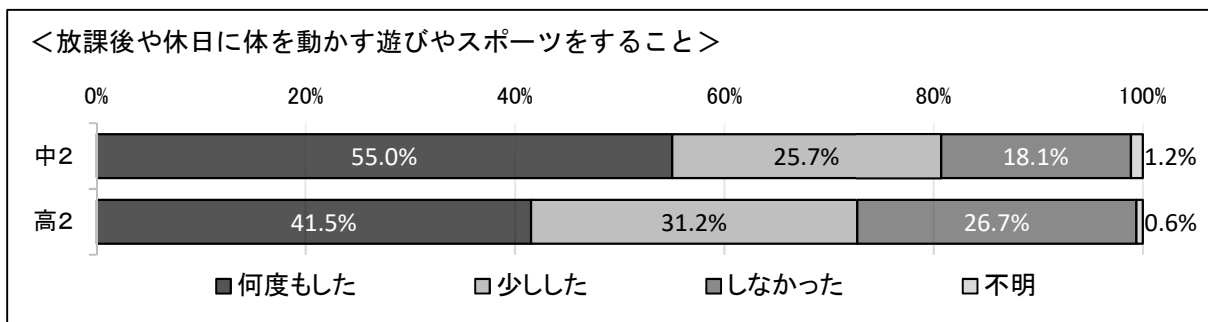
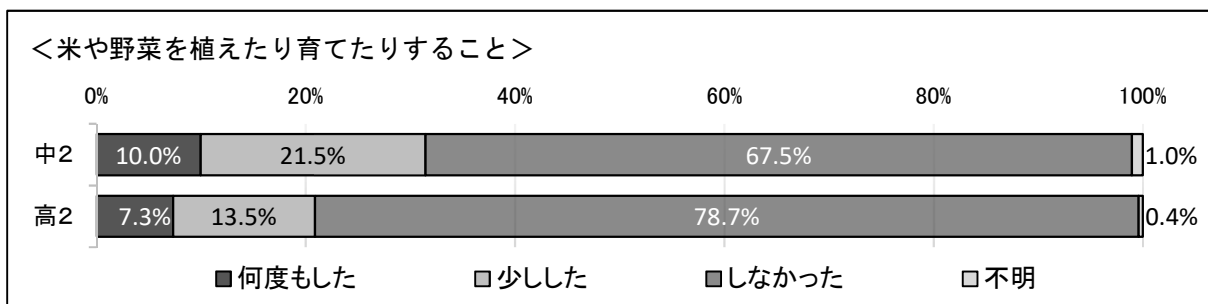
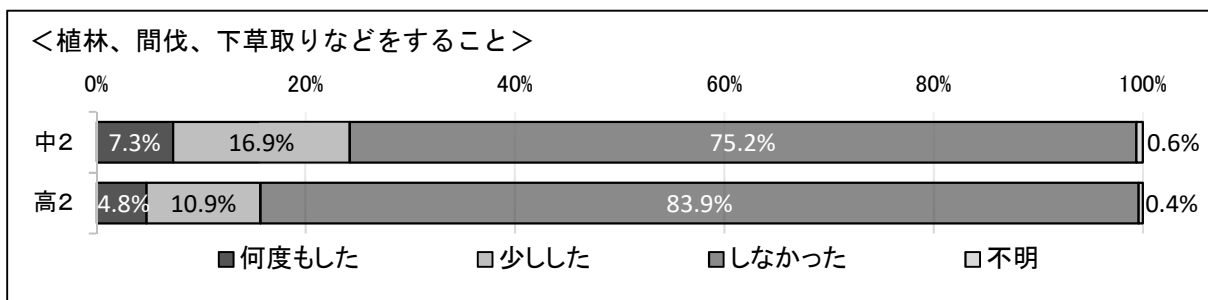
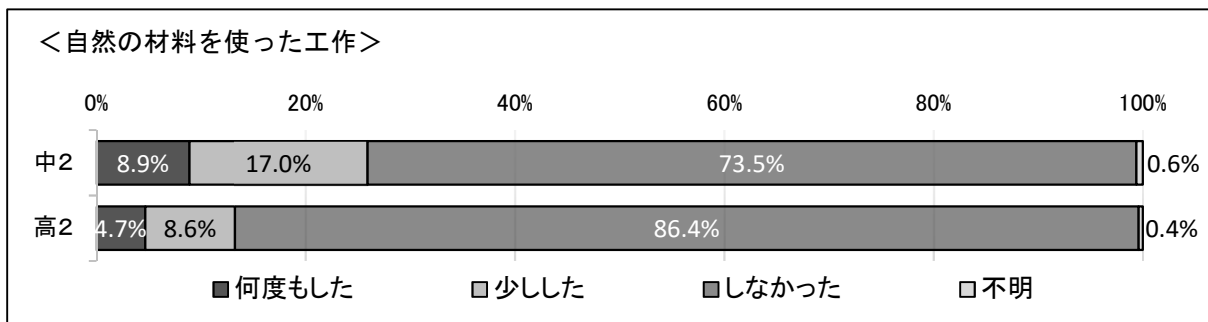
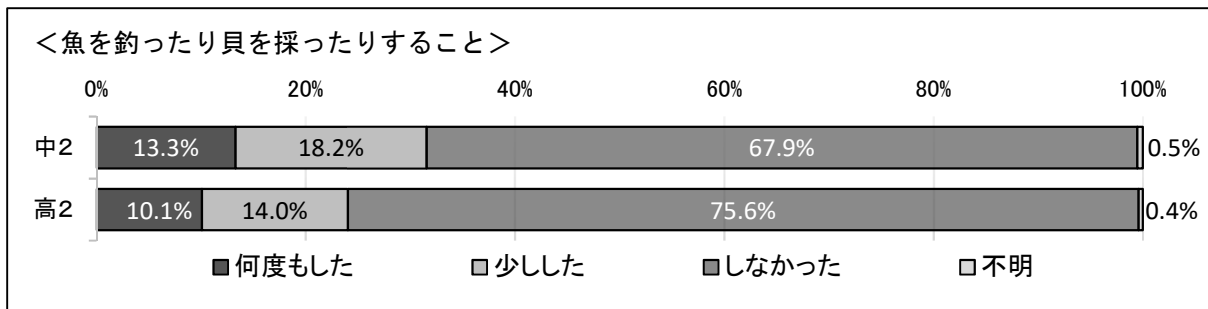


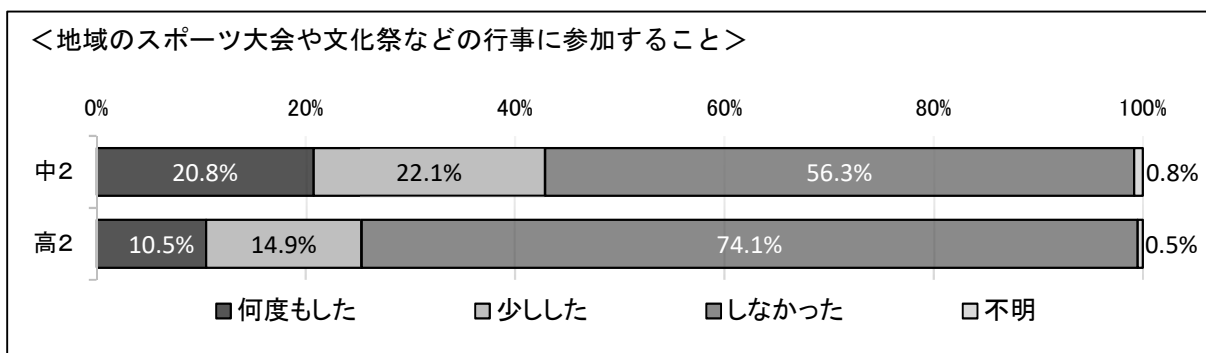
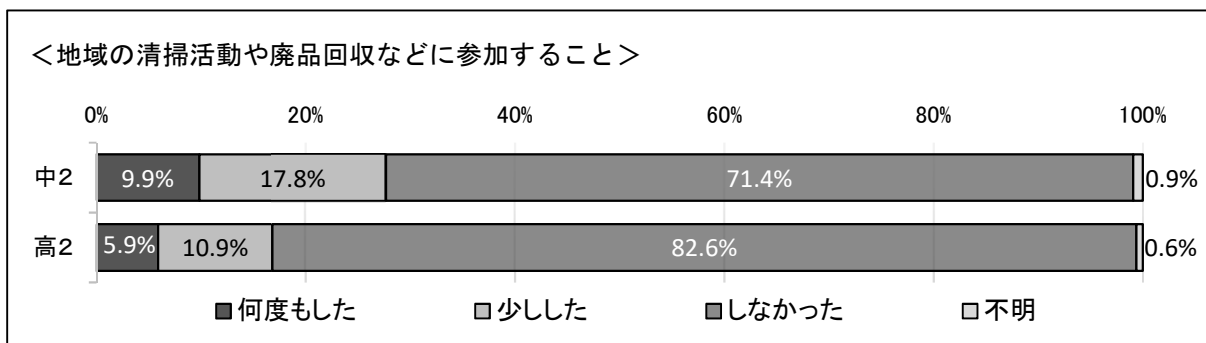
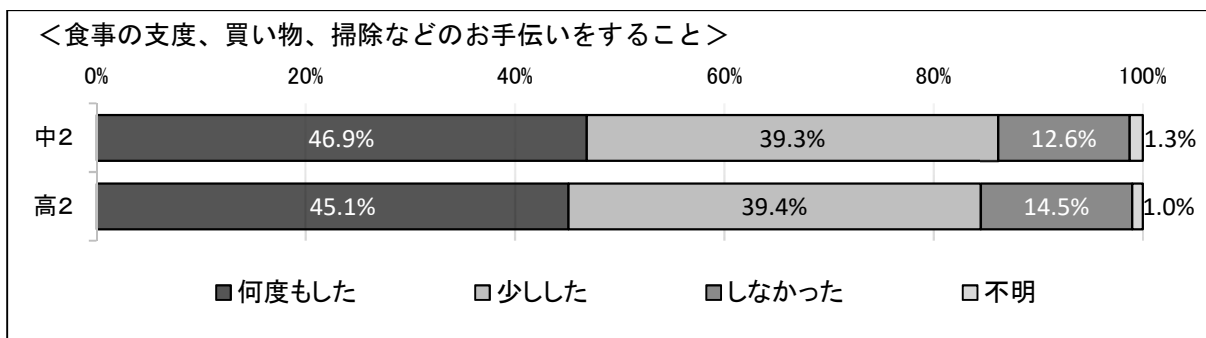
## 6 体験活動（学校の授業や行事以外）について

※中学校2年生、高校2年生のみ質問している。





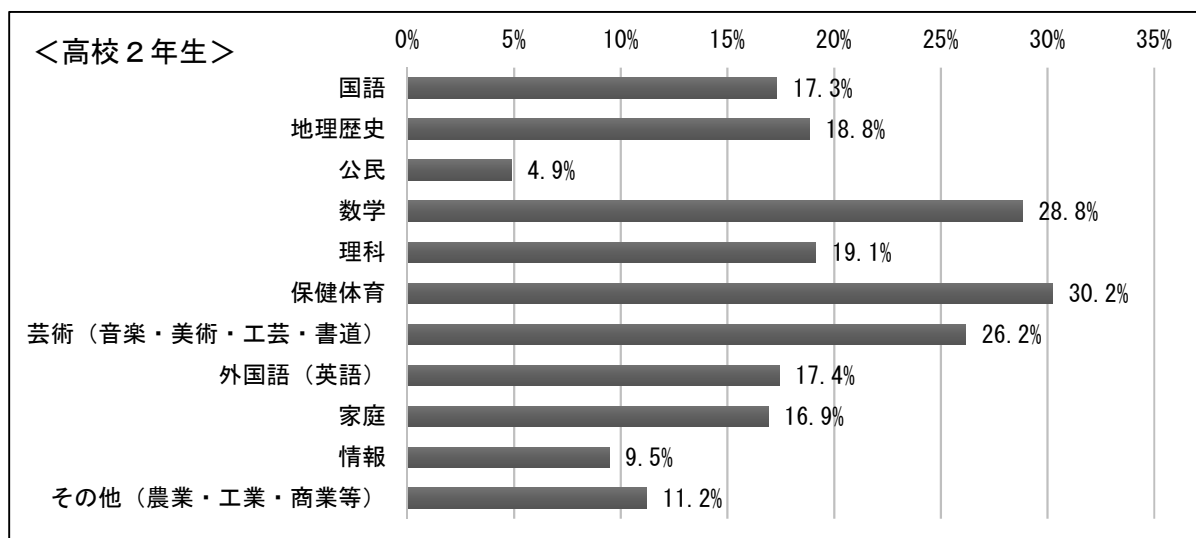
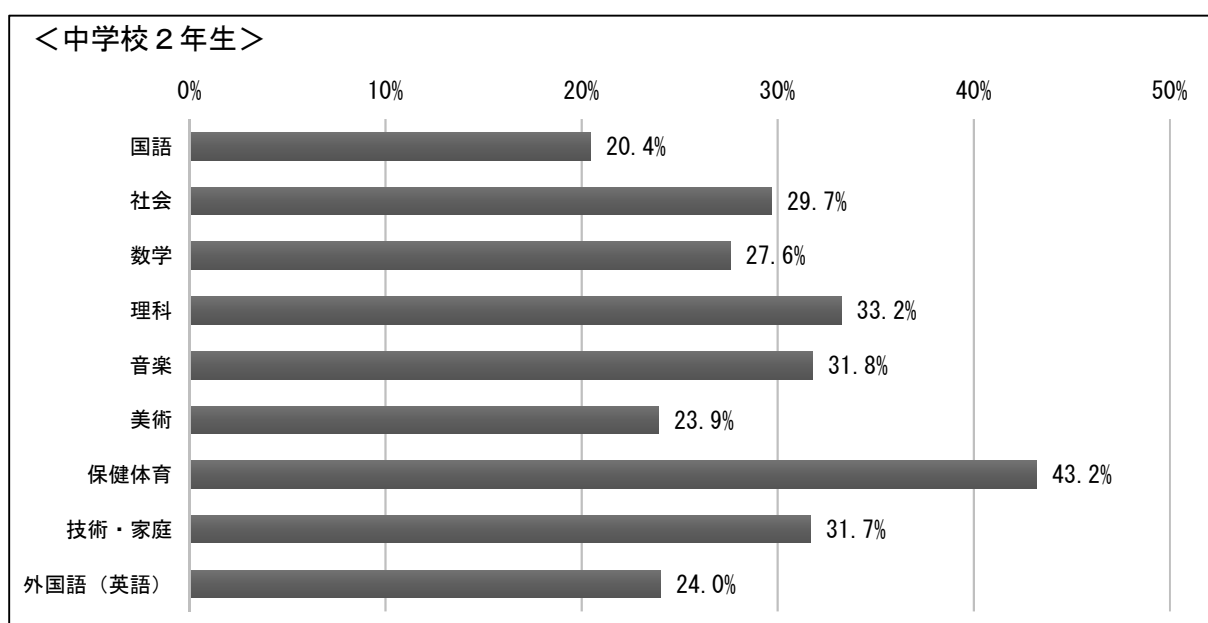
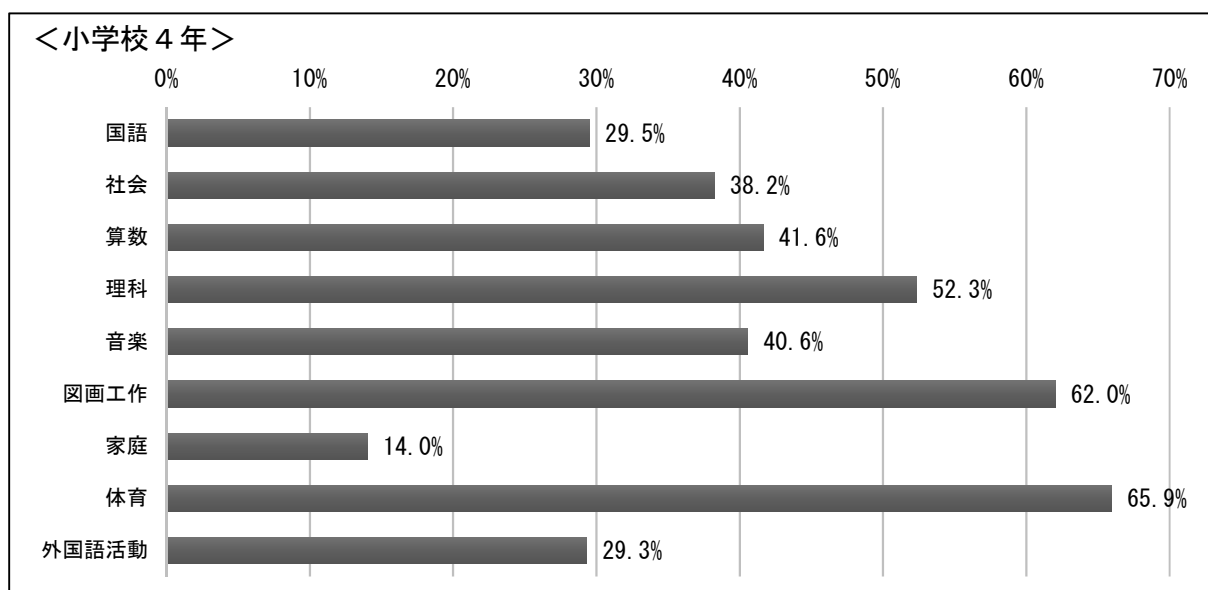




体験活動（学校の授業や行事以外）について、「何度もした」と回答した割合が最も高かった項目は、中学2年生では「放課後や休日に体を動かす遊びやスポーツをすること」（55.0%）、高校2年生では「食事の支度、買い物、掃除などのお手伝いをすること」（45.1%）であった。

「何度もした」と回答した割合で、中学2年生と高校2年生の差が最も大きい項目は「放課後や休日に体を動かす遊びやスポーツをすること」（13.5ポイントの差）であった。

## 7 得意教科について \* 複数回答



## 8 普段の生活について

